

美唄市人口ビジョン

(2024年度 改訂版)

令和7年3月

美唄市

目 次

美唄市人口ビジョンの位置付け	1
美唄市人口ビジョンの対象期間	1
国の長期ビジョン	1
北海道人口ビジョン	3
美唄市の人口の現状分析	4
人口推移	4
人口動態と合計特殊出生率（TFR）	11
美唄市の経済の環境	18
産業全体の状況	18
農業の状況	20
製造業の状況	21
観光の状況	23
雇用の状況	25
アンケート調査結果	27
美唄市の人口の将来展望	32
人口を中心にした美唄市の現状	36
人口の変化が美唄市に与える影響	37

美唄市 人口ビジョン

美唄市人口ビジョンの位置付け

美唄市人口ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の趣旨に基づき、本市における人口の現状の分析を行い、人口に関する地域住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものです。

このため、令和2年(2020年)以降の状況変化等を踏まえた令和8年度(2025年度)から令和12年度(2029年度)までの5か年の目標や施策の基本的方向性、具体的な施策などをまとめた「次期地方版総合戦略」を策定する上で重要な基礎となることを認識し、人口ビジョンを改訂することとします。

美唄市人口ビジョンの対象期間

美唄市人口ビジョンの対象期間は、令和2年(2020年)から20年後の令和22年(2040年)、40年後の令和42年(2060年)とし、第7期美唄市総合計画(令和3年度～令和12年度)との整合性を図るとともに、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計を基礎数値として用います。

国の長期ビジョン

■長期ビジョンの趣旨

長期ビジョンでは、人口の現状の分析と見通しの策定に際し、人口減少が経済社会に与える影響の分析や、人口減少に歯止めをかける取組と、人口減少に対応するための取組を同時に推進することや、地方への移住の希望や結婚・出産・子育てに関する希望など国民の希望の実現に全力を注ぐ等の基本的視点を提示しています。

■日本の将来推計人口

●日本の人口減少の見通し

- ・令和2年を人口推計の出発点とした場合、同年の国勢調査によれば1億2,615万人が2070年には8,700万人になるものと推計されている。
- ・総人口に占める65歳以上人口の割合(高齢化率)は、2020年の28.6%から2070年には38.7%へと上昇

●人口減少が経済社会に与える影響をどう考えるか

- ・人口の減少により、経済規模の縮小や国民生活の水準が低下するおそれがある。

●「東京一極集中」の問題をどう考えるか

- ・地方から東京圏への人口流出は続いており、特に若い世代が東京圏に流出する。

●人口減少に歯止めをかけることの意味をどう考えるか

- ・出生率の改善が早期であるほど、その効果は大きい。

■目指すべき将来方向と今後の基本戦略

●目指すべき「将来方向」をどう考えるか

- ・将来にわたって活力ある日本社会を維持することが基本方向。
- ・国民の地方移住や結婚・出産・子育てといった希望を実現する。

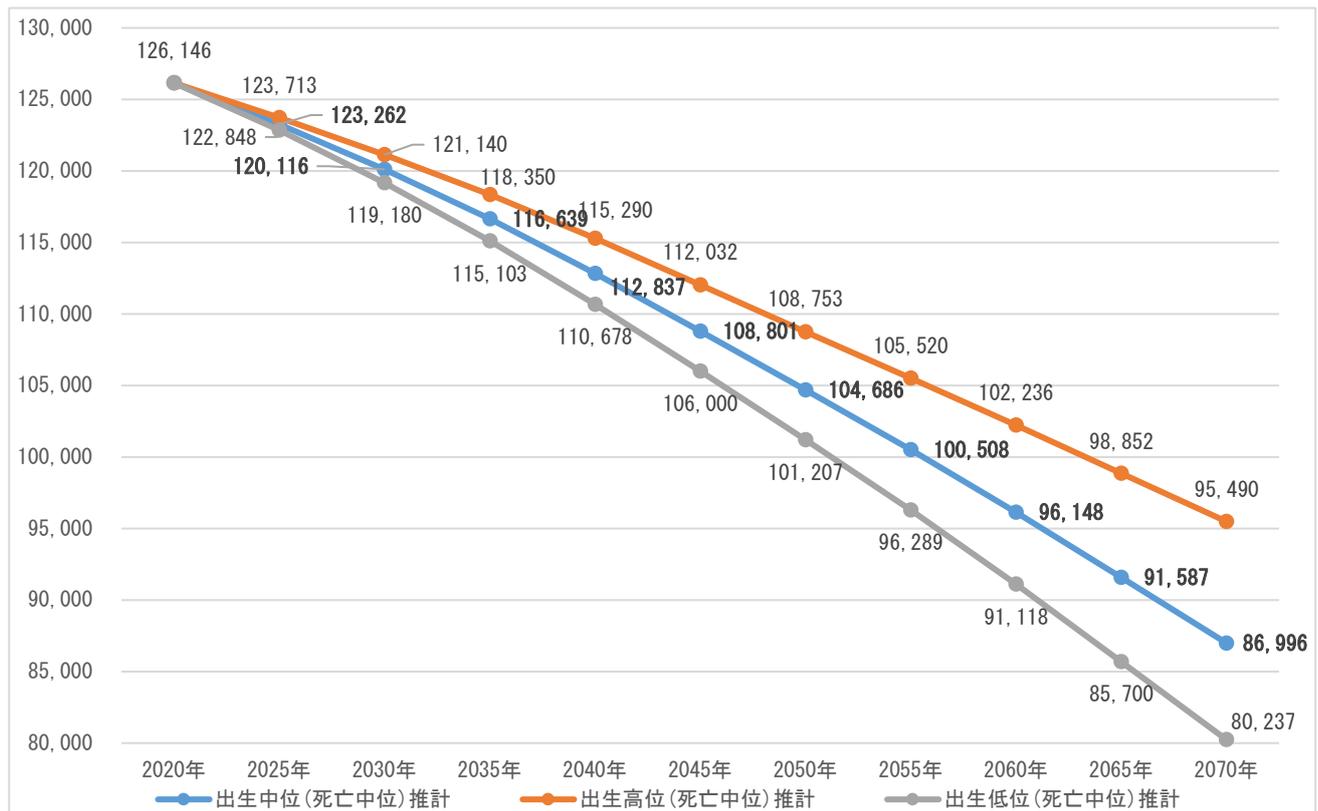
●取り組むべき「政策目標」をどう考えるか

- ・人口減少克服・地方創生に正面から取り組むとともに、地域の特性に即した対応や制度全般の見直しを進めていく必要がある。
- ・以下の中長期的な政策目標を提示する。
 - ①若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
 - ②東京圏への人口の過度の集中の是正
 - ③地域の特性に即した地域課題の解決

●今後、この問題にどのような姿勢で臨むべきか

- ・国民的論議を喚起し、人口減少は国家の根本に関わる問題であるとの基本認識を共有し、中長期的な目標を掲げ継続的に取り組む。
- ・地域住民の参加も得る形で、地方の発意と自主的な取組を基本とし、国がそれを様々な面で支援していく。

■ 我が国の人口の推移と長期的な見通し ■



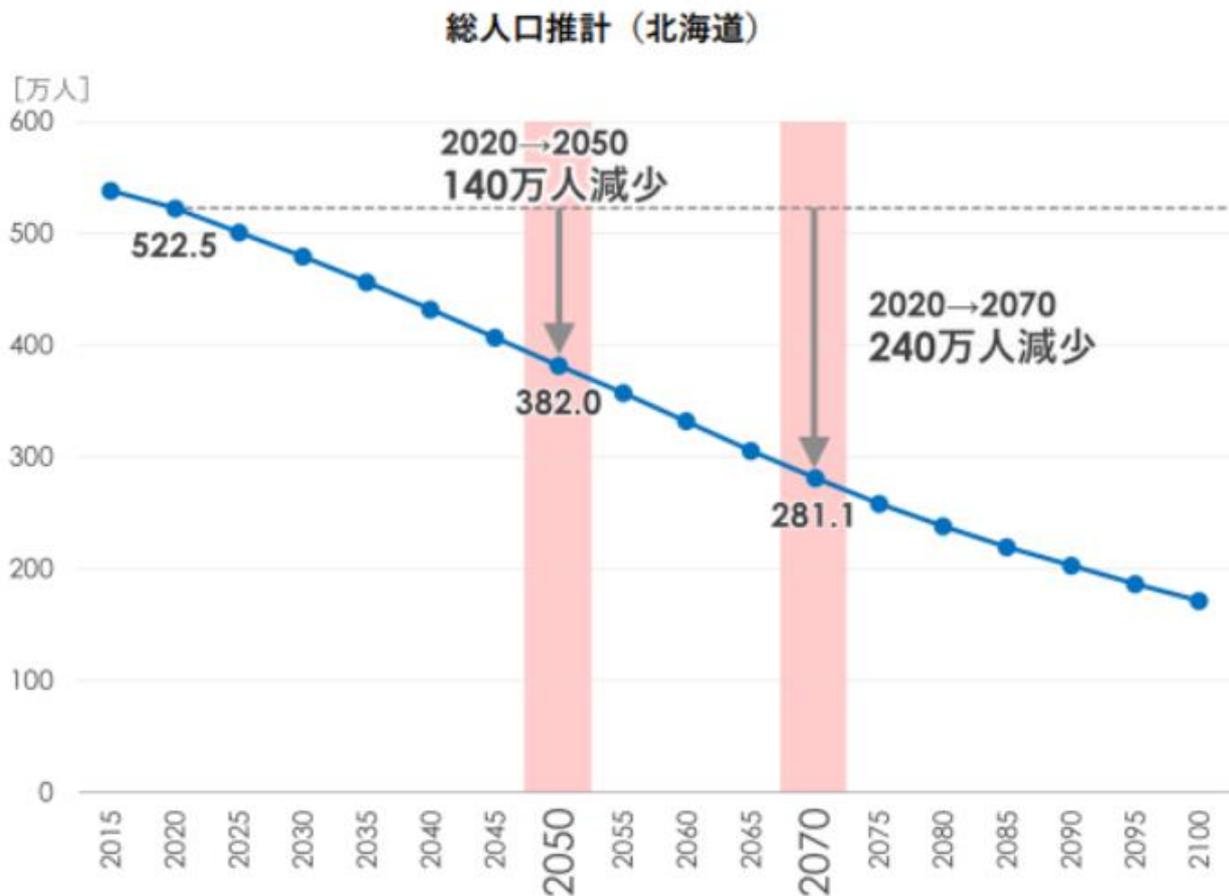
- ・国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」(出生中位(死亡中位))によると、2070年の総人口は約8,700万人にまで減少すると見通されている。
- ・仮に、合計特殊出生率が1.64(出生高位(死亡中位))と仮定した場合、2070年の総人口は約9,549万人と推計される。
- ・なお、合計特殊出生率が1.13(出生高位(死亡中位))と仮定した場合、2070年の総人口は約8,024万人と推計される。

北海道人口ビジョン

北海道では、戦後から1950年代にかけて転入増等の効果により、全国と比較して高い人口増加率を保っていた。その後、1980年代後半～1990年のいわゆるバブル期の一時期を除くと、1990年代後半までは人口増加が続いたが、平成9年(1997年)に最も多い約570万人に達して以降、現在まで、人口減少が続いている。

また、国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した将来人口推計では、2050(令和32年)年の人口は382万人、2070年の人口は約281.1万人にまで減少すると見込まれる。

■ 北海道の人口推移の見通し ■



社人研「日本の地域別将来推計人口(2023年推計)」
及びその推計方法に準拠して北海道が推計

■ 取り組みの基本方向等

めざす姿: 「一人ひとりが豊かで安心して住み続けられる地域を創る」

○ 戦略の2つの観点

- ・ 人口減少のスピードを「緩和する観点」
- ・ 人口減少社会に「適応」する観点

○基本戦略

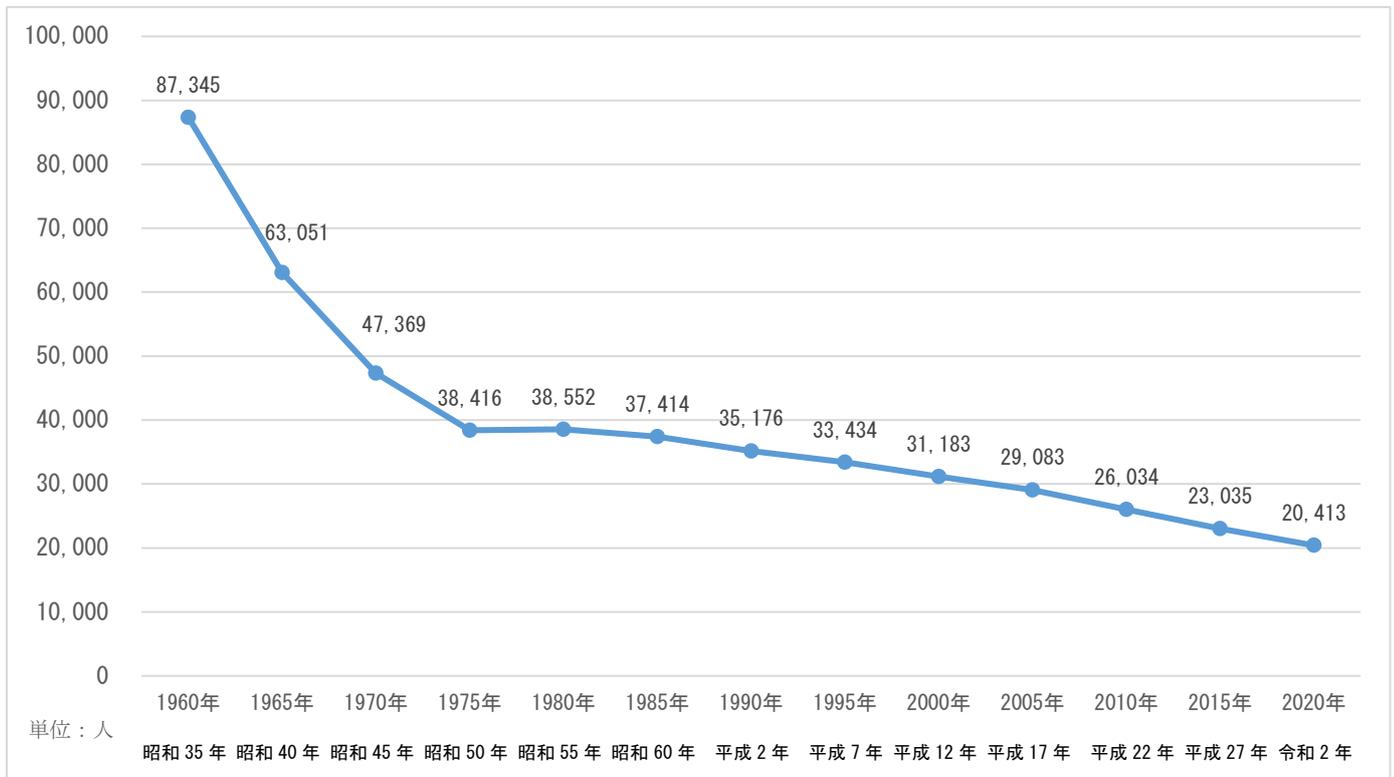
- 1 一人ひとりの希望をかなえられる社会をつくる
- 2 地域の魅力を高め、地域への人の流れをつくる
- 3 安心して暮らせる豊かな地域をつくる
- 4 潜在力を活かした産業・雇用をつくる
- 5 多様な連携により地域の活力をつくる

美唄市の人口の現状分析

人口推移

本市における1960年(昭和35年)以降の人口推移を国勢調査からみると、1960年(昭和35年)時点では87,345人であったが、その後、1963年の三井美唄炭鉱の閉山を皮切りに中小炭鉱の閉山が相次ぎ1973年の北菱我路炭鉱山の閉山をもって市内の炭鉱坑口が閉ざされ、1975年調査時には38,416人まで大きく減少した。その後、人口減少のペースはやや緩やかになったものの、近年では、社会減が横ばいで推移している一方で、少子高齢化を背景として人口減少数に占める自然減の割合が高くなっており、人口減少に拍車がかかっている。

■ 美唄市の国勢調査人口推移 ■



資料) 国勢調査(基準日各年10月1日)

また、本市の年齢別人口の推移をみると、2010年(平成22年)以降では、「30～34歳」「35～39歳」の減少が顕著であり、2020年(令和2年)には「30～34歳」が635人、「35～39歳」が817人で、それぞれ2010年(平成22年)対比で69.8%、73.2%となり、概ね3割の減少となっている。

このように、2020年(令和2年)2010年(平成22年)対比では、ほとんどの年齢階層で減少しており、とりわけ「65～69歳」以下は全ての階層で減少し、その減少幅が2割から3割をとなっている。

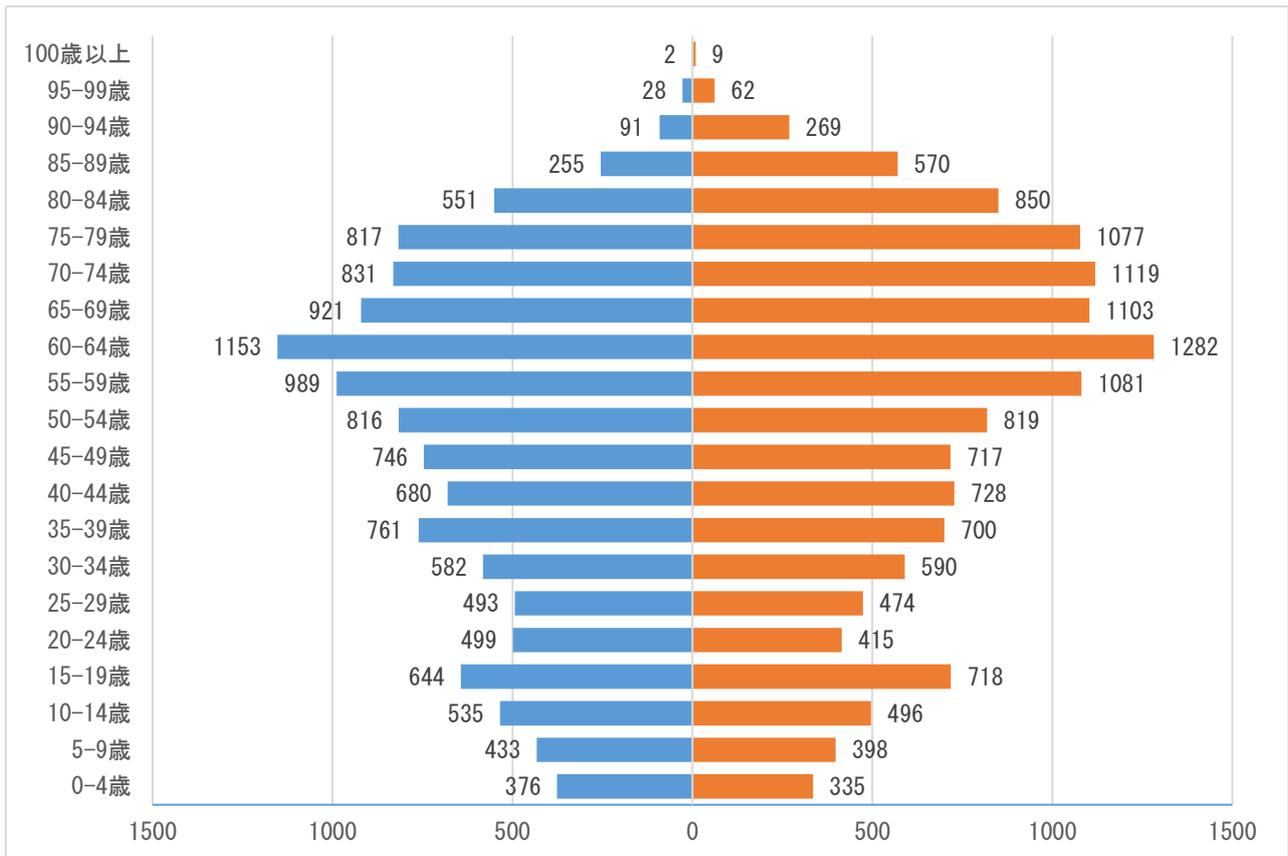
■ 美唄市の年齢別人口の推移 ■

単位:人	2010年(平成22年)			2015年(平成27年)			2020年(令和2年)				
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	2010年対比	2015年対比
0～4歳	711	376	335	511	269	242	420	221	199	59.1%	82.2%
5～9歳	831	433	398	658	348	310	480	259	221	57.8%	72.9%
10～14歳	1,031	535	496	804	422	382	639	333	306	62.0%	79.5%
15～19歳	1,362	644	718	1,063	473	590	917	402	515	67.3%	86.2%
20～24歳	914	499	415	744	364	380	605	335	270	66.2%	81.3%
25～29歳	967	493	474	713	403	310	610	333	277	63.1%	85.6%
30～34歳	1,172	582	590	910	466	444	635	356	279	54.2%	69.8%
35～39歳	1,461	761	700	1,116	563	553	817	419	398	55.9%	73.2%
40～44歳	1,408	680	728	1,373	713	660	1,101	564	537	78.2%	80.2%
45～49歳	1,463	746	717	1,342	655	687	1,341	699	642	91.7%	99.9%
50～54歳	1,635	816	819	1,416	725	691	1,308	634	674	80.0%	92.4%
55～59歳	2,070	989	1,081	1,555	775	780	1,389	698	691	67.1%	89.3%
60～64歳	2,435	1,153	1,282	1,973	937	1,036	1,484	724	760	61.0%	75.2%
65～69歳	2,024	921	1,103	2,266	1,049	1,217	1,836	881	955	90.7%	81.0%
70～74歳	1,950	831	1,119	1,847	814	1,033	2,085	921	1,164	107.0%	112.9%
75～79歳	1,894	817	1,077	1,716	680	1,036	1,650	703	947	87.1%	96.2%
80～84歳	1,401	551	850	1,534	616	918	1,379	515	864	98.4%	89.9%
85～89歳	825	255	570	943	350	593	1,068	392	676	129.5%	113.3%
90～94歳	360	91	269	404	108	296	499	147	352	138.6%	123.5%
95～99歳	90	28	62	124	17	107	129	28	101	143.3%	104.0%
100歳以上	11	2	9	19	4	15	21	1	20	190.9%	110.5%

資料) 国勢調査

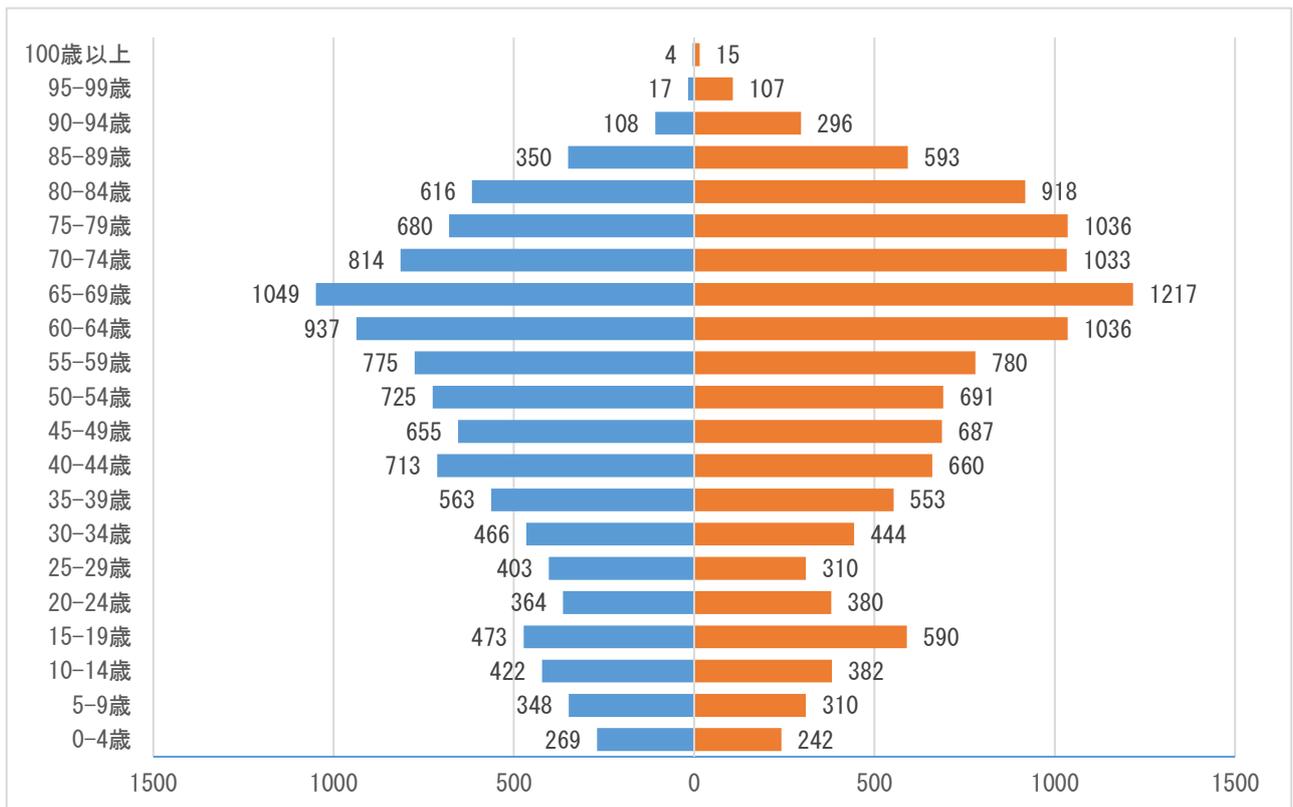
注1) 2020年(令和2年)の対比はそれぞれ総数

■ 美唄市の人口ピラミッド(2010年(平成22年)) ■

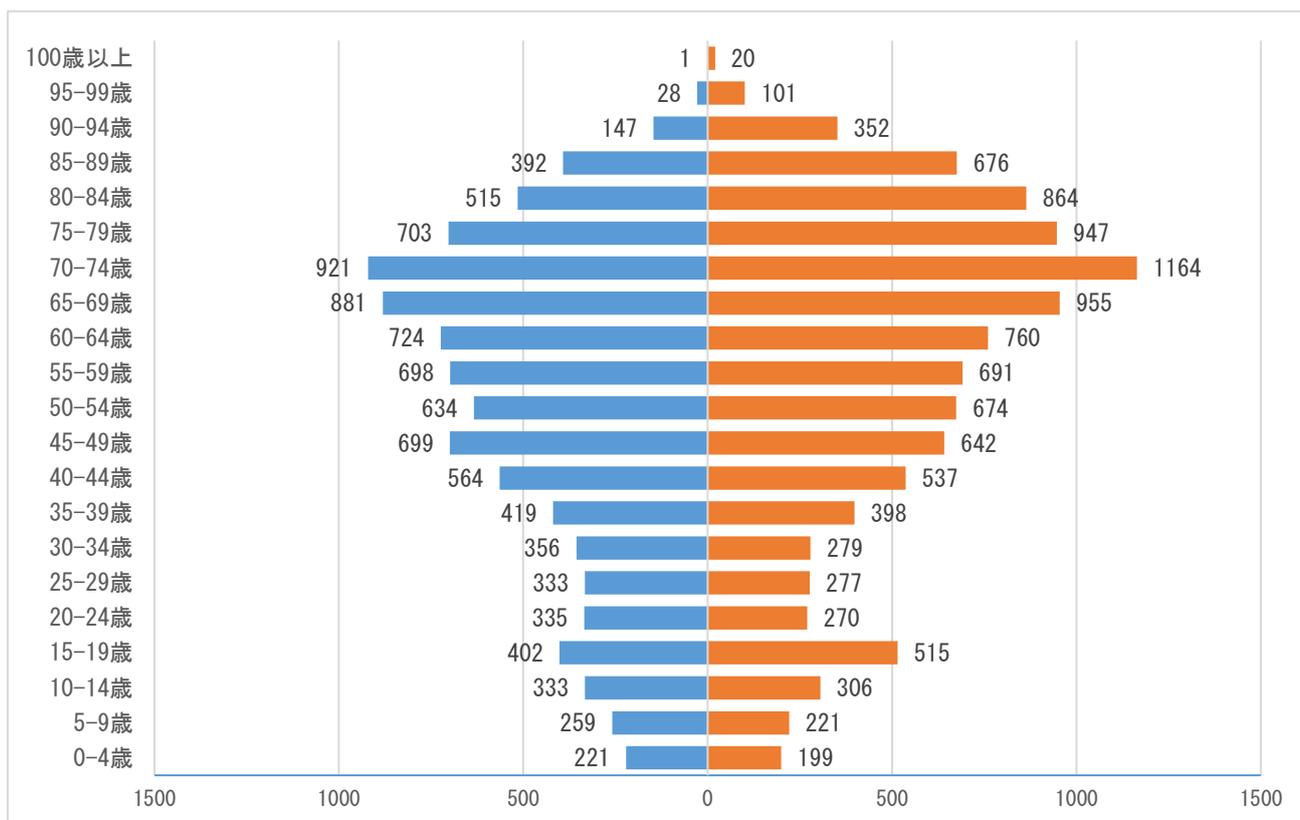


資料) 国勢調査(下図も同じ)

■ 美唄市の人口ピラミッド(2015年(平成27年)) ■

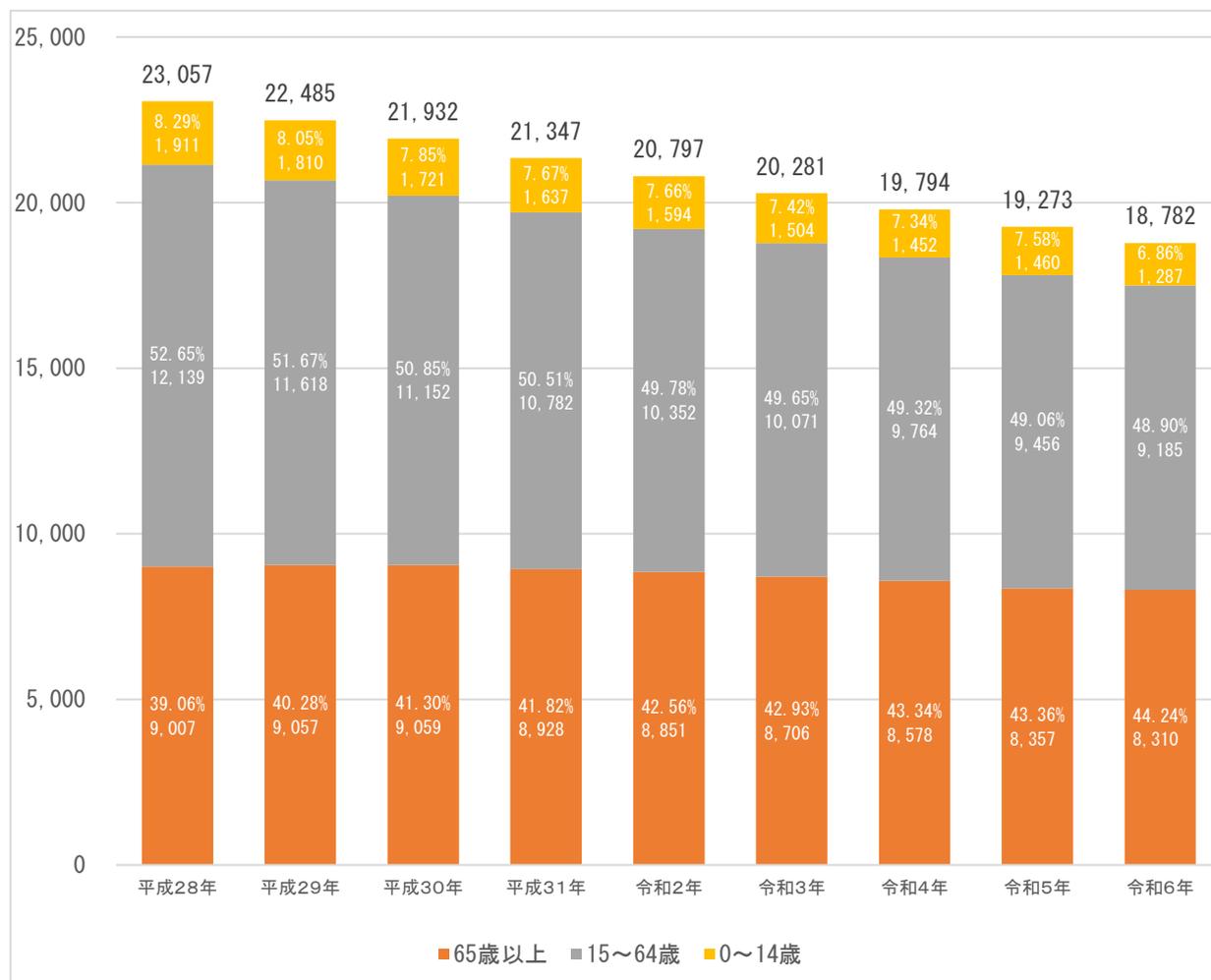


■ 美唄市の人口ピラミッド(2020年(令和2年)) ■



また、国勢調査とは別に住民基本台帳をみると、2016年(平成28年)以降は一貫して減少し、2024年(令和6年)には2016年(平成28年)と比較し18,782人と4,275人減少した。高齢人口は2018年(平成30年)をピークに減少しているものの、高齢化率(総人口に占める65歳以上人口の割合)は、人口減少に伴い2024年(令和6年)に44.24%と5.18ポイント増加している。

■ 美明市の住民基本台帳人口推移 ■



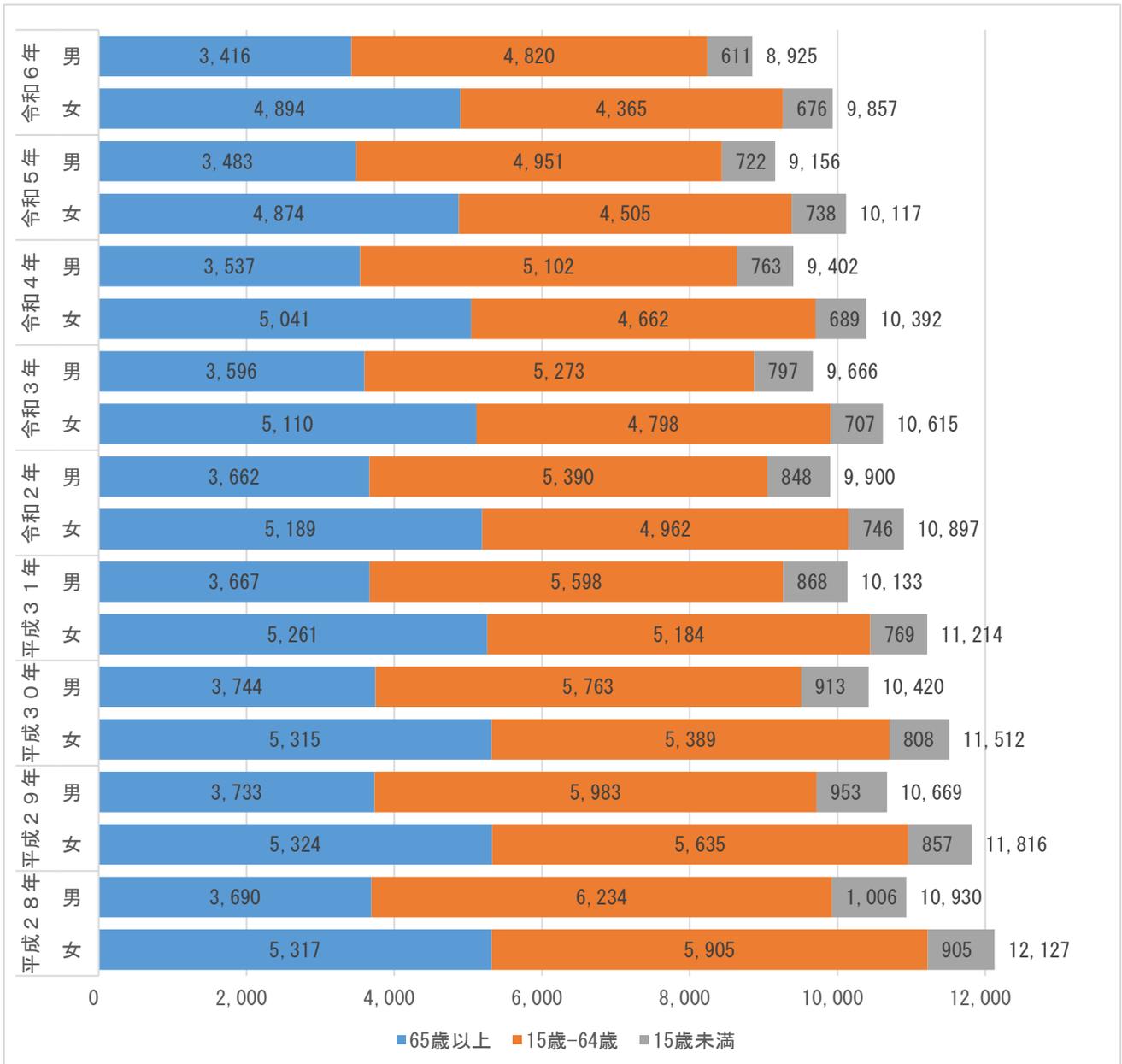
資料) 住民基本台帳(各年4月30日)

この住民基本台帳を男女別にみると、2016年(平成28年)では男性10,930人に対し、女性が12,127人で1,197人多く、全体に占める割合がそれぞれ47.4%、52.6%となった。

2024年(令和6年)では男性8,925人に対し、女性が9,857人で932人多くなっており、全体に占める割合もそれぞれ47.5%、52.5%と女性が0.1ポイント減少した。

この比率を全国(2020年(令和2年)国勢調査の男女別基準人口)と比較すると、女性は全国の51.3%を1.2ポイント上回っている。

■ 美唄市の男女別住民基本台帳人口の推移 ■



資料) 住民基本台帳(各年4月30日)

また、参考までに国道を挟んだ条丁目西部と東部の人口推移をみると、西部の減少幅が大きくなっており、令和6年と平成28年を比較すると西部が15.1ポイントの減少となっているのに対し、東部では13.8ポイントの減少となっている。また、西部と東部の割合でみると、平成28年は西部が37.3%、東部が62.7%に対し、令和6年年では西部が36.9%、東部が63.1%と東部の割合が0.4%増加している。

■ 美唄市の地域別人口動向 ■

単位:人	西 部					東 部				
	条丁目 南西部	条丁目 北西部	計	前年比	指数	条丁目 東北部	条丁目 東南部	計	前年比	指数
平成 28 年	2,557	3,144	5,701	-186	100.0	4,489	5,100	9,589	-172	100.0
平成 29 年	2,519	3,070	5,589	-112	98.0	4,397	5,004	9,401	-188	98.0
平成 30 年	2,436	2,988	5,424	-165	95.1	4,353	4,887	9,240	-161	96.4
平成 31 年	2,398	2,947	5,345	-79	93.8	4,295	4,745	9,040	-200	94.3
令和 2 年	2,340	2,908	5,248	-97	92.1	4,270	4,621	8,891	-149	92.7
令和 3 年	2,285	2,858	5,143	-105	90.2	4,199	4,554	8,753	-138	91.3
令和 4 年	2,263	2,797	5,060	-83	88.8	4,094	4,466	8,560	-193	89.3
令和 5 年	2,175	2,806	4,981	-79	87.4	4,000	4,411	8,411	-149	87.7
令和 6 年	2,142	2,698	4,840	-141	84.9	3,935	4,330	8,265	-146	86.2



資料) 住民基本台帳(各年3月31日)で、平成25年以降は外国人住民を含んだ数値

人口動態と合計特殊出生率(TFR)

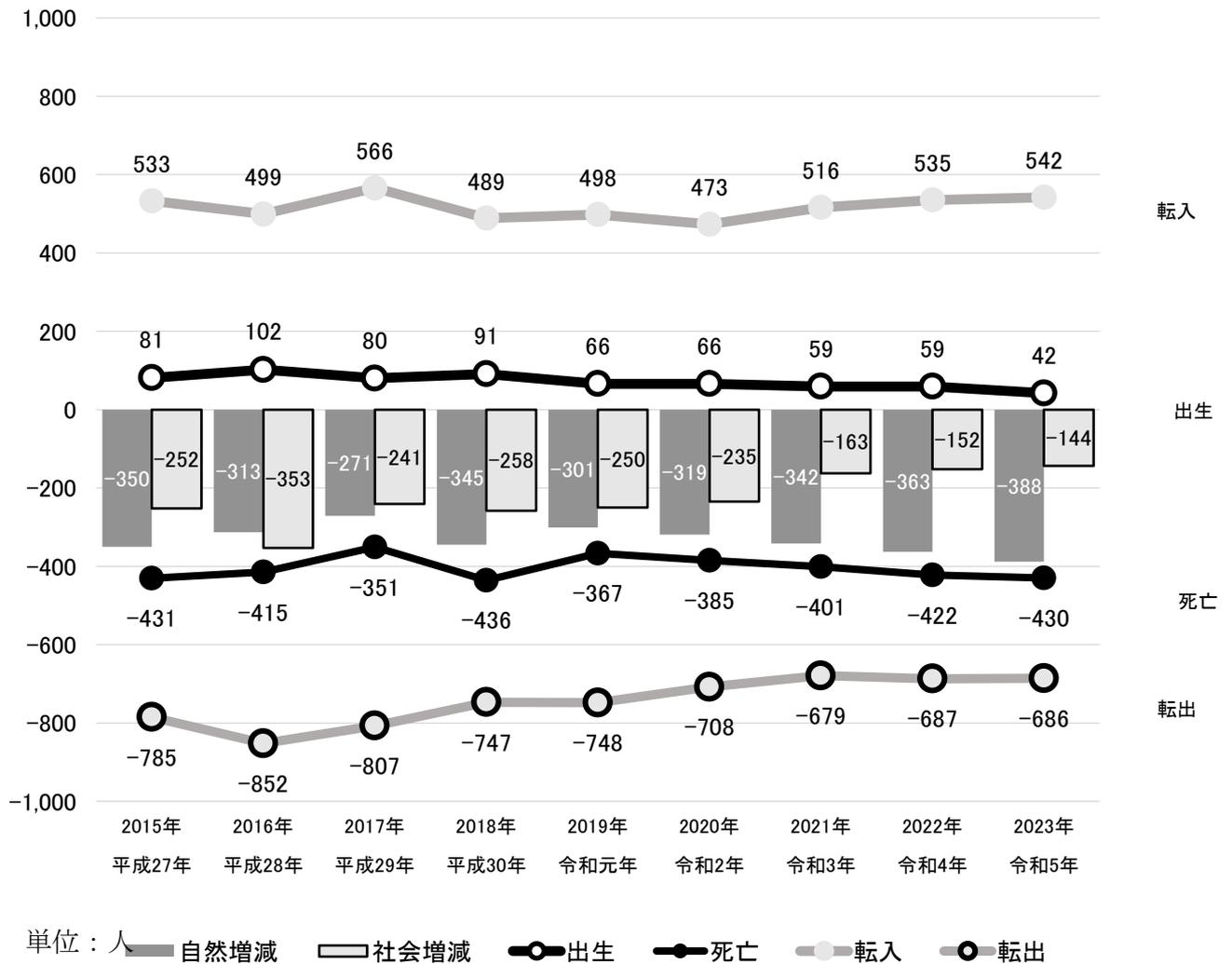
■人口動態

本市の住民基本台帳から社会増減や自然増減、その他増減についてみると、いずれの年度でも転出数が転入数を上回っており、2023年度(令和5年度)は転出数686人に対し、転入数が542人で差し引き転出超過数が144人となっている。

自然増減についても死亡数が出生数を上回っており、2023年度(令和5年度)では死亡数が430人に対し、出生数が42人と差し引き死亡超過数が388人となっている。

これらから、本市は依然人口減少が続いているが、社会減少数がほぼ横ばい傾向にあるのに対し、出生数の減少及び死亡者数の増加から自然減少数が増加傾向にあり、人口減少に歯止めがかかっていない。

■ 美咲市の社会増減と自然増減の推移 ■



資料) 住民基本台帳

■ 美唄市の社会増減と自然増減、その他増減の推移(続き) ■

単位:人 (年度)		2014年 平成26年	2015年 平成27年	2016年 平成28年	2017年 平成29年	2018年 平成30年	2019年 令和元年	2020年 令和2年	2021年 令和3年	2022年 令和4年	2023年 令和5年
転入	道内	471	456	373	436	388	384	370	411	431	373
	道外	99	77	126	130	101	114	103	105	104	169
	計	570	533	499	566	489	498	473	516	535	542
転出	道内	-713	-681	-732	-668	-611	-615	-599	-584	-493	-559
	道外	-133	-104	-120	-139	-136	-133	-109	-95	-194	-127
	計	-846	-785	-852	-807	-747	-748	-708	-679	-687	-686
社会増減 計		-276	-252	-353	-241	-258	-250	-235	-163	-152	-144
自然増減	出生	137	81	102	80	91	66	66	59	59	42
	死亡	373	431	415	351	436	367	385	401	422	430
自然増減 計		-236	-350	-313	-271	-345	-301	-319	-342	-363	-388
その他 計		8	8	-2	2	0	7	0	2	14	8
合 計		-504	-594	-668	-510	-603	-544	-554	-503	-501	-524

また、2020年(令和2年)の国勢調査から、転入出の都府県、道内市町村別の上位(前回の国勢調査から20人以上の転入あるいは転出があった都府県、道内市町村)をあらためて集計すると、道内市町村では「札幌市」が転入出とも最も多く、差し引き315人の転出超過となった。

都府県では「神奈川県」への転出が最も多く、差し引き23人の転出超過となり、次いで「東京都」が18人の転出超過となっているが、これに「埼玉県」を加えると転出超過は合計62人となり、「道外」の58.5%を占めている。

■ 美唄市の転入出の状況(2020年(令和2年)) ■

単位：人	転 入			転 出			転入－転出
	総数	男	女	総数	男	女	
転入転出計	1,593	782	811	2,109	987	1,122	-516
道内他市区町村	1,348	639	709	1,829	840	989	-481
札幌市	319	167	152	634	252	382	-315
函館市	25	13	12	18	11	7	7
旭川市	57	29	28	55	23	32	2
帯広市	23	9	14	17	6	11	6
岩見沢市	136	67	69	337	164	173	-201
苫小牧市	13	4	9	27	15	12	-14
江別市	24	14	10	113	60	53	-89
三笠市	12	4	8	57	29	28	-45
千歳市	28	21	7	45	27	18	-17
滝川市	43	20	23	52	24	28	-9
砂川市	33	17	16	34	12	22	-1
恵庭市	18	10	8	32	17	15	-14
奈井江町	29	10	19	35	13	22	-6
月形町	14	7	7	36	15	21	-22
他県から	231	134	97	280	147	133	-49
埼玉県	22	9	5	12	8	4	10
東京都	35	21	9	53	29	24	-18
神奈川県	12	10	2	35	11	24	-23

また、令和5年4月から令和6年3月に実施した転入出者に対するアンケート調査結果をみると、回答者数は転入で108件、転出で109件となったが、このうち道内(管外)は、転入57件(全体に占める割合52.8%)、転出57件(同52.3%)となっている。

■ 転出入アンケート調査結果の回答状況（2023年（令和5年）4月～2024年（令和6年）3月） ■

転入（回答数（人）：比率（%））			転出（回答数（人）：比率（%））		
空知管内	16	14.8%	空知管内	24	22.0%
道内（管外）	57	52.8%	道内（管外）	57	52.3%
道外	30	27.8%	道外	26	23.9%
国外	1	0.9%	国外	0	0.0%
無回答	4	3.7%	無回答	2	1.8%
計	108	100.0%	計	109	100.0%

このうち、岩見沢市からの転入者が4件（転入全体に占める割合3.7%）、転出者が14件（転出全体に占める割合12.8%）となっている一方、札幌市をみると転入者が19件（同17.6%）、転出者が31件（同28.4%）となっている。

これらについて、その理由をみると、転入は「転勤のため」が40.7%、転出は「就職、転職のため」が33.9%と最も多く、転入では44件（全体に占める割合40.7%）、転出では37件（同33.9%）となっている。岩見沢市からの転入の理由で最も割合が高いのが「就職、転職のため」で50%、札幌市からの転入の理由で最も割合が高いのが「転勤のため」で47.4%、また、転出の理由では岩見沢市が「転勤のため」で21.4%、札幌市への転出の理由で最も高いのが「就職、転職のため」で38.7%となっている。

■ 転入出の理由 ■

単位：人	転入						転出					
	全体		うち岩見沢市		うち札幌市		全体		うち岩見沢市		うち札幌市	
就職、転職のため	38	35.2%	2	50.0%	7	36.8%	37	33.9%	3	21.4%	12	38.7%
転勤のため	44	40.7%	0	0.0%	9	47.4%	33	30.3%	4	28.6%	8	25.8%
定年退職後を美唄で過ごすため	2	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	1	3.2%
結婚など戸籍の異動のため	4	3.7%	0	0.0%	1	5.3%	6	5.5%	2	14.3%	2	6.5%
入学、転校などのため	2	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	11	10.1%	0	0.0%	4	12.9%
家族、親族と同居するため	8	7.4%	0	0.0%	2	10.5%	8	7.3%	0	0.0%	1	3.3%
病院、老人ホーム、施設などに入るため	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.8%	0	0.0%	1	3.2%
住宅を新築、購入したため	2	1.9%	1	25.0%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	1	3.2%
その他	7	6.5%	1	25.0%	0	0.0%	8	7.3%	3	21.4%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.8%	2	14.3%	1	3.2%
合計	108	100.0%	4	100.0%	19	100.0%	109	100.0%	14	100.0%	31	100.0%

2020年（令和2年）国勢調査では、美唄市に常住する就業者・通学者数（従業通学値不詳を含まない）は、10,843人であり、そのうち市内に通勤通学する者は8,518人（78.6%）となっている。

また、「他市町村から美唄市へ就業・通学する人」と「美唄市～他市町村へ就業・通学する人」のいずれかが20人以上の市町村は、8市町ある。そのうち「入」と「出」のいずれかが100人以上の市町は5市町あり、滝川市を除き、4市町で「入<出」となっている。

■美唄市在住者の通勤通学場所及び美唄市内に通勤通学する者の常住場所（2020年（令和2年））■

単位：人	人口	当地に常住する就業者・通学者数（従業通学地不詳を含まない）	美唄市から通勤通学者数【出】	美唄市へ通勤通学者数【入】	入－出
札幌市	1,973,395	998,349	300	286	-14
旭川市	329,306	174,260	18	18	0
岩見沢市	79,306	40,661	978	868	-110
苫小牧市	170,113	89,053	10	2	-8
江別市	121,056	66,507	68	97	29
三笠市	8,040	3,768	191	121	-70
滝川市	39,490	21,001	92	106	14
砂川市	16,486	8,886	150	140	-10
深川市	97,950	88,865	6	7	1
恵庭市	70,331	40,448	13	12	-1
北広島市	58,171	30,984	9	9	0
石狩市	56,869	27,866	6	7	1
当別町	15,916	9,299	8	9	1
奈井江町	5,120	2,857	211	166	-45
栗山町	11,272	6,523	17	13	-4
月形町	3,691	1,703	64	18	-51
浦臼町	1,732	1,067	18	17	-51
その他	-	-	186	1,896	1,710

単位：人	人口	当地に常住する就業者・通学者数（従業通学地不詳を含まない）	美唄市内に通勤通学	美唄市外に通勤通学
美唄市	20,413	10,843	8,518	2,345

資料) 国勢調査（2020年（令和2年））

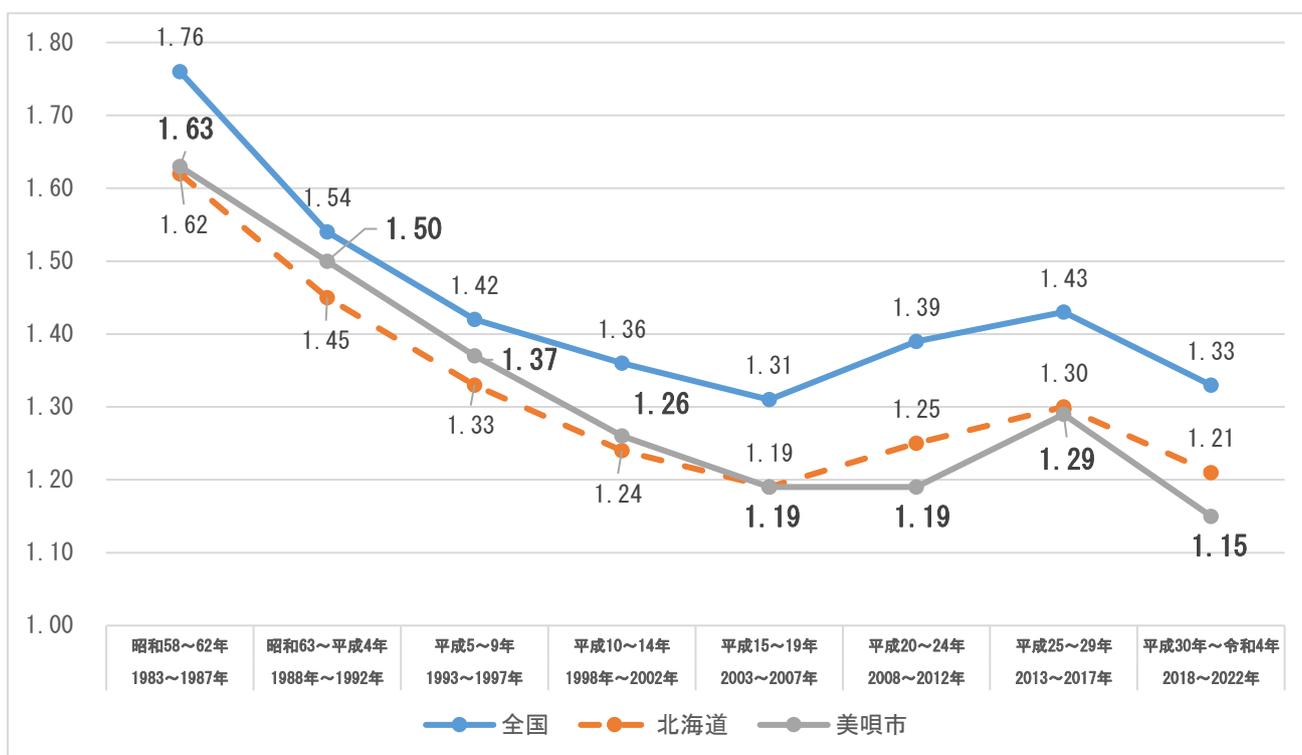
■合計特殊出生率(TFR)

合計特殊出生率(TFR: Total Fertility Rate)とは、一人の女性が一生に産む子供の平均数を示しており、例えば時期や地域などの異なる集団間の出生による人口の自然増減を比較、評価する際の重要な指標であることから、今回の推計でも用いている。

この合計特殊出生率(TFR)について、本市の状況を見ると、減少を続けて2003年(平成15年)～2007年(平成19年)には1.19となり、直近値(2018年(平成30年)～2022年(令和4年))では1.15となっており0.04ポイント下回っている。この数値は北海道の1.21を0.06ポイント下回り、全国の1.33については0.18ポイント下回っている。

なお、北海道は全国の数値よりも相対的に低い水準にあり、このことは同時期の合計特殊出生率(TFR)が1.02となっている札幌市の影響が大きいと考えられる。

■ 美唄市の合計特殊出生率(TFR)推移 ■



資料) 人口動態保健所・市区町村別統計(全国は人口動態総計)

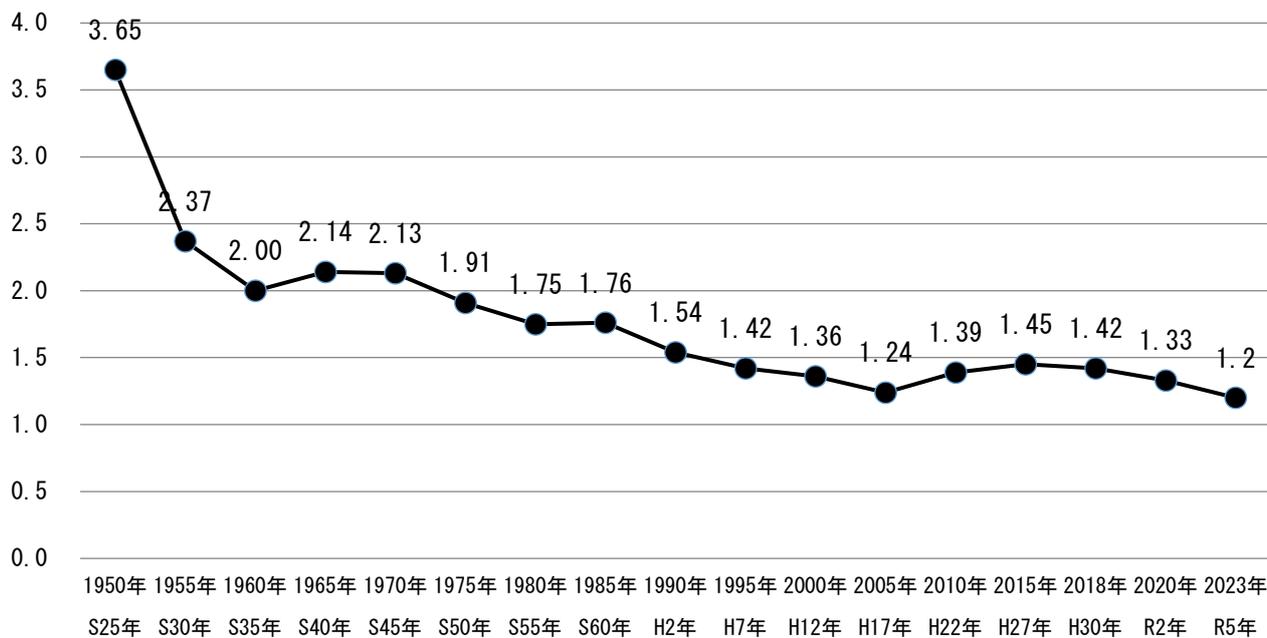
また、参考までに人口動態総覧により、全国の1950年(昭和25年)から2018年(平成30年)までの推移をみると、1950年(昭和25年)は3.65となったが、1965年(昭和40年)の2.14以降はなだらかな減少傾向にあり、2023年(令和5年)には1.2まで低下した

なお、人口が均衡(増加も減少もしない)する合計特殊出生率(TFR)は2.1程度といわれており(「人口置換水準」という)、2013年(平成25年)の女性の死亡率等を考慮すると2.07(国立社会保障・人口問題研究所の算出値)となるが、1970年(昭和45年)の2.13以降でこの水準を上回ったことはない。

また、1975年(昭和50年)以降は20歳代の出生率が大きく低下している反面、近年では30歳～40歳

代の出生率が上昇傾向にあるが、直近の2023年(令和5年)では1.2と図中の2020年(令和2年)の1.33を0.13ポイント、下回った。

■ 全国の合計特殊出生率(TFR)推移 ■
1950年(昭和25年)～2023年(令和5年)



資料) 人口動態総覧

注1) 人口動態総覧に市町村別の数値はない

注2) 過去の合計特殊出生率のピークは、統計が開始された1947年(昭和22年)の4.54である

美唄市の経済の環境

産業全体の状況

事業所数と従業者数をみると、2021年(令和3年)の経済センサス活動調査では、890事業所、従業者数7,148人となっており、2014年(平成26年)との対比では事業所数が208事業所、従業者数が2,499人減少している。産業ごとでも縮小傾向にある産業がほとんどであるが、「農林漁業」では事業所数が増加している。

■ 美唄市の事業所及び従業者数 ■

産業分類	2014年(平成26年)		2016年(平成28年)		2021年(令和3年)			
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	14年対比	従業者数	14年対比
総数	1,098	9,647	970	7,368	890	81.1%	7,148	97.0%
農林漁業	35	245	34	207	42	120.0%	197	80.4%
鉱業	5	53	4	28	4	80.0%	36	67.9%
建設業	118	1,105	108	869	108	91.5%	871	78.8%
製造業	63	935	64	843	57	90.5%	780	83.4%
電気・ガス・熱供給・水道業	6	46	2	26	3	50.0%	27	58.7%
情報通信業	3	33	3	27	4	133.3%	28	84.8%
運輸業	34	649	31	591	32	94.1%	501	77.2%
卸売業・小売業	216	1,287	200	1,209	184	85.2%	1,130	87.8%
金融・保険業	18	142	16	149	14	77.8%	93	65.5%
不動産業	77	156	71	138	62	80.5%	136	87.2%
学術研究・専門技術	15	214	12	112	13	86.7%	128	59.8%
飲食店・宿泊業	141	740	127	634	99	70.2%	550	74.3%
生活関連・娯楽業	108	391	105	428	85	78.7%	362	92.6%
教育・学習支援業	42	576	25	73	20	47.6%	175	30.4%
医療・福祉	82	1,587	65	1,295	62	75.6%	1,420	89.5%
複合サービス業	15	312	14	273	14	93.3%	290	92.9%
サービス業(他に分類されないもの)	101	514	89	466	87	86.1%	424	82.5%
公務	19	662	-	-	-	-	-	-

資料) 経済センサス活動調査(2016年、2021年)、基礎調査(2014年)

また、国勢調査から産業別就業者数をみると、2020年(令和2年)では、第1次産業が1,204人(全体に占める割合13.0%)、第2次産業が1,927人(同20.8%)、第3次産業が5,948人(同64.3%)となっている。なお、就業者数の総数は9,257人となっており、前回調査に比べ790人、7.8%の減少となっている。

第1次産業についてみると、2015年(平成27年)と2020年(令和2年)の対比で232人、16.2%の減少となっており基幹産業である農業の担い手不足が顕在化してきている。

■ 美唄市の産業別就業者数等 ■

産業分類	2010年(平成22年)				2015年(平成27年)				2020年(令和2年)			
	総数	男	女	構成	総数	男	女	構成	総数	男	女	構成
総数	10,900	6,143	4,757	100.0%	10,047	5,539	4,508	100.0%	9,257	5,086	4,171	100.0%
第1次産業	1,601	908	693	14.7%	1,436	823	613	14.3%	1,204	699	505	13.0%
農業, 林業	1,601	908	693		1,436	823	613		1,204	699	505	
うち農業	1,594	901	693		1,433	820	613		1,200	695	505	
第2次産業	2,328	1,790	538	21.4%	2,097	1,620	477	20.9%	1,927	1,487	440	20.8%
鉱業, 採石業	20	15	5		27	23	4		17	15	2	
砂利採取業					0				0			
建設業	1,209	1,073	136		1,067	950	117		972	854	118	
製造業	1,099	702	397		1,003	647	356		938	618	320	
第3次産業	6,781	3,324	3,457	62.2%	6,276	2,957	3,319	62.5%	5,948	2,798	3,150	64.3%
電気・ガス・熱供給	57	47	10		44	35	9		31	24	7	
水道業					0				0			
情報通信業	51	37	14		43	31	12		51	33	18	
運輸業, 郵便業	519	459	60		488	432	56		426	367	59	
卸売業, 小売業	1,250	542	708		1,094	459	635		1,027	412	615	
金融業, 保険業	151	56	95		133	47	86		112	38	74	
不動産業, 物品賃貸業	88	49	39		80	40	40		78	36	42	
学術研究	119	77	42		108	73	35		94	55	39	
専門・技術サービス業					0				0			
宿泊業, 飲食サービス業	575	181	394		538	162	376		473	142	331	
生活関連サービス業	353	135	218		317	119	198		265	96	169	
娯楽業					0				0			
教育, 学習支援業	435	227	208		325	150	175		305	129	176	
医療, 福祉	1,610	400	1,210		1,631	405	1,226		1,592	402	1,190	
複合サービス事業	207	104	103		255	138	117		205	125	80	
サービス業(他に分類されないもの)	613	411	202		574	363	211		643	419	224	
公務(他に分類されるものを除く)	753	599	154		646	503	143		646	520	126	
分類不能の産業	190	121	69	1.7%	238	139	99	2.3%	178	102	76	1.9%

資料) 国勢調査

注1) 2010年(平成22年)調査から2007年(平成19年)11月標準産業分類の改定後の産業で集計

注2) 表中の「構成」とは、全産業に占める各産業の割合

農業の状況

農業についてみると、2020年(令和2年)の総農家数は560件で、農業に従事する世帯員総数は1,212人となっており、同年の国勢調査人口20,413人に占める割合は5.9%となっている。なお、総農家数は減少傾向にあるが、農業の法人化が増加してきており、2022年(令和3年)では53法人となっている。

■ 美唄市の農業：農家数及び農業従事世帯員数 ■

年 度	総農家数 (戸)	自給的 農家 (戸)	販 売 農 家 (戸)				世帯員総数 (人)	農業従事 世帯員総数 (人)
			計	専業農家	1種 兼業農家	2種 兼業農家		
2005年 (平成17年)	923	109	818	240	479	99	3,383	2,303
2010年 (平成22年)	790	109	681	285	296	100	2,698	1,930
2015年 (平成27年)	685	92	593	334	178	81	2,258	1,646
2020年 (令和2年)	560	74	486	—	—	—	1,618	1,212

資料) 世界農林業センサス(2010年)、農林業センサス(2005年、2015年、2020年)

注) 世帯員総数・農業従事世帯員総数は販売農家に係るもの

■ 農業法人数の推移 ■

(単位：法人)

	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和3年度)
農業法人数	49	49	51	52	53

資料) 農政課調べ

農業算出額等についてみると、直近の2022年(令和4年)の数値では、耕種の農業産出額が59.2億円となっており、農業産出額のほとんどを占めている。

なお、耕種の内訳をみると、米が34億円(57.4%)、雑穀豆類が7.1億円(同12.0%)、麦類が6.4億円(同10.8%)、花きが5.8億円(同9.8%)、野菜が4.5億円(同7.6%)などとなっている。

■ 美唄市の農業：農業産出額及び生産農業所得 ■

(単位:千万円)

区 分	2018年 (平成30年度)	2019年 (平成31年度)	2020年 (令和2年度)	2021年 (令和3年度)	2022年 (令和4年度)
農業産出額合計	540	637	628	582	594
耕種計	537	636	626	580	592
米	378	427	408	337	340
麦類	26	42	48	66	64
雑穀豆類	47	55	57	63	71
いも類	1	0	0	0	0
野菜	68	41	45	44	45
果実	1	3	3	3	3
花き	12	59	59	60	58
工芸農作物	3	7	5	6	8
種苗・苗木類その他	1	2	2	2	3
畜産計	3	2	1	2	2
肉用牛	2	2	1	2	2
乳用牛	0	0	0	0	0
豚	0	0	0	0	0
鳥	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0

資料) 農林水産省岩見沢統計・情報センター

製造業の状況

製造業についてみると、2023年(令和5年)の事業所数は47ヶ所、従業者数は728人、製造品出荷額等は約146.9億円となっている。これは総数で見れば2019年(平成31年)に比べて12.5億円、8.0%の減少であるが、2020年(令和2年)以降で見ると令和4年にかけてなだらかな減少傾向にあったが、令和5年には、令和2年と同水準にまで回復しており、また、従業者1人あたりの製造品出荷額等でみると、2019年(平成31年)で2,062万円に対し、2023年(令和5年)は2,018万円と微減程度となっている。

2019年時点で「プラスチック製品製造業」に次いで製造品出荷額等が大きかった「食料品製造業」では39.4億円から35.9億円へと8.8%減少している。

また、「金属製品製造業」では1.0億円、6.1%増しているが、それ以外の製造業では製造品出荷額等が減少している。

単位:所・人・万円	2019年(平成31年)			2020年(令和2年)			2021年(令和3年)		
	事業所数	従業者数	出荷額等	事業所数	従業者数	出荷額等	事業所数	従業者数	出荷額等
総数	40	773	1,594,349	38	754	1,467,913	35	706	1,281,608
食料品製造業	7	133	394,702	8	126	359,390	8	131	273,386
飲料・たばこ・飼料製造業	-	0	0	0	0	0	1	8	0
繊維工業	5	66	54,208	5	69	53,260	4	59	45,777
家具・装備品製造業	1	31	0	1	32	0	1	32	0
印刷・同関連業	1	8	0	1	8	0	1	8	0
化学工業	1	77	0	2	86	0	2	95	0
石油製品・石炭製品製造業	1	9	0	1	8	0	1	8	0
プラスチック製品製造業	9	208	630,475	8	207	604,713	7	163	520,559
窯業・土石製品製造業	3	62	58,747	3	62	52,082	4	67	66,268
鉄鋼業	-	-	0	0	0	0	0	0	0
金属製品製造業	5	134	163,764	5	136	168,789	4	125	14,589
生産用機械器具製造業	2	11	0	2	10	0	1	5	0
業務用機械器具製造業	1	8	0	0	0	0	0	0	0
電子部品・デバイス製 ・電子回路製造業	1	12	0	0	0	0	0	0	0
その他の製造業	3	14	17,028	2	10	0	1	5	0

単位:所・人・万円	2022年(令和4年)			2023年(令和5年)			2019年対2023年比		
	事業所数	従業者数	出荷額等	事業所数	従業者数	出荷額等	事業所数	従業者数	出荷額等
総数	47	723	1,292,160	47	728	1,469,801	117.0%	94.0%	92.1%
食料品製造業	10	135	256,486	10	131	359,405	142.0%	98.0%	91.0%
飲料・たばこ・飼料製造業	1	8	0	1	8	0	100.0%	800.0%	-
繊維工業	4	57	50,074	4	61	43,928	80.0%	92.0%	81.0%
家具・装備品製造業	2	22	0	2	22	0	200.0%	70.0%	-
印刷・同関連業	3	13	10,077	3	13	10,380	300.0%	162.0%	-
化学工業	2	90	0	2	110	0	200.0%	142.0%	-
石油製品・石炭製品製造業	1	8	0	1	8	0	100.0%	88.0%	-
プラスチック製品製造業	8	173	500,416	8	154	552,608	88.0%	74.0%	87.6%
窯業・土石製品製造業	4	67	53,217	4	66	53,080	133.0%	106.0%	90.3%
鉄鋼業	0	0	0	0	0	0	-	-	-
金属製品製造業	6	130	159,287	6	135	173,792	120.0%	100.0%	106.1%
生産用機械器具製造業	4	10	24,977	4	10	26,420	200.0%	90.0%	-
業務用機械器具製造業	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%	-
電子部品・デバイス製 ・電子回路製造業	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%	-
その他の製造業	2	10	0	2	10	0	66.0%	71.0%	0.0%

資料) 工業統計調査(2019年、2020年) 経済センサス活動調査(2021年)、

経済構造実態調査-製造事業所調査(2022年、2023年)

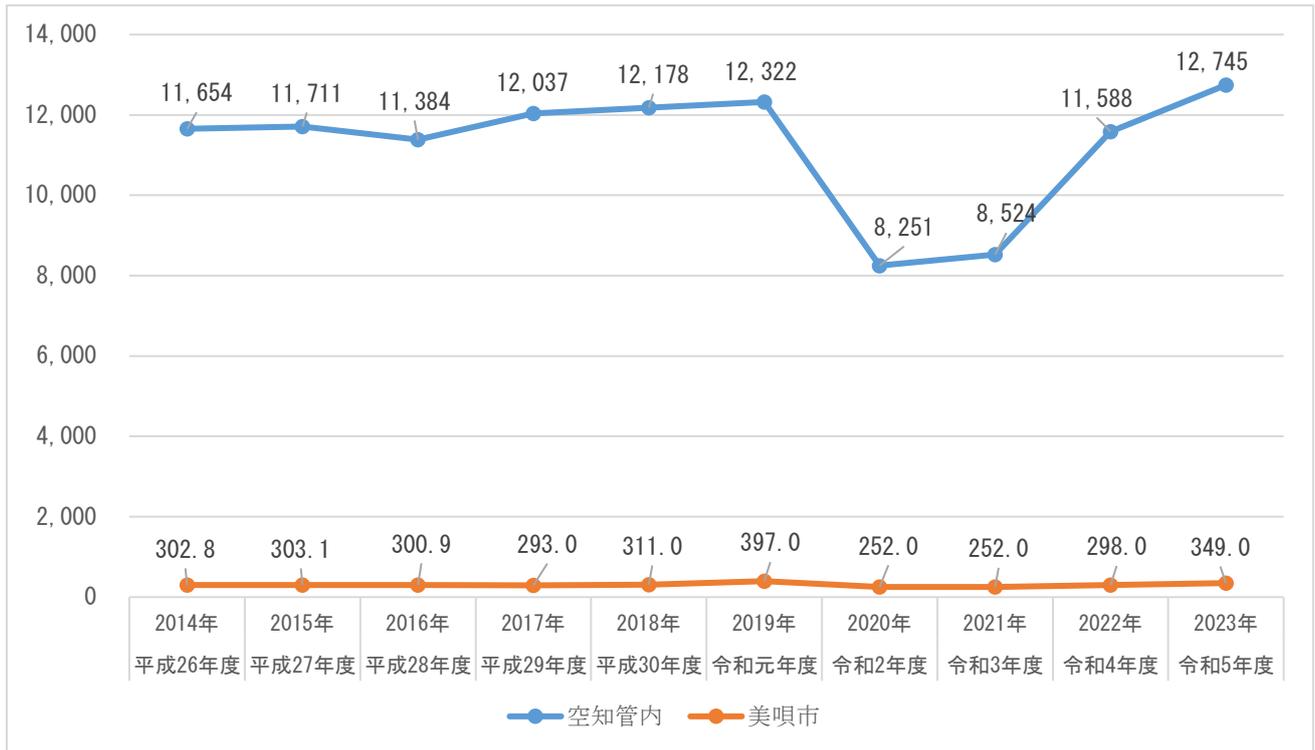
注1) 従業者4人以上の事業所が対象

注2) 該当のない産業分類は省略した

観光の状況

観光についてみると、新型コロナウイルス感染症の影響により減少傾向にあったが2023年度（令和5年度）の観光入込客数は34.9万人で、2019年度（令和元年度）のピークを下回っているものの回復傾向にある。北海道との対比では0.2%、空知総合振興局との対比でも2.7%を占めるにとどまっている。

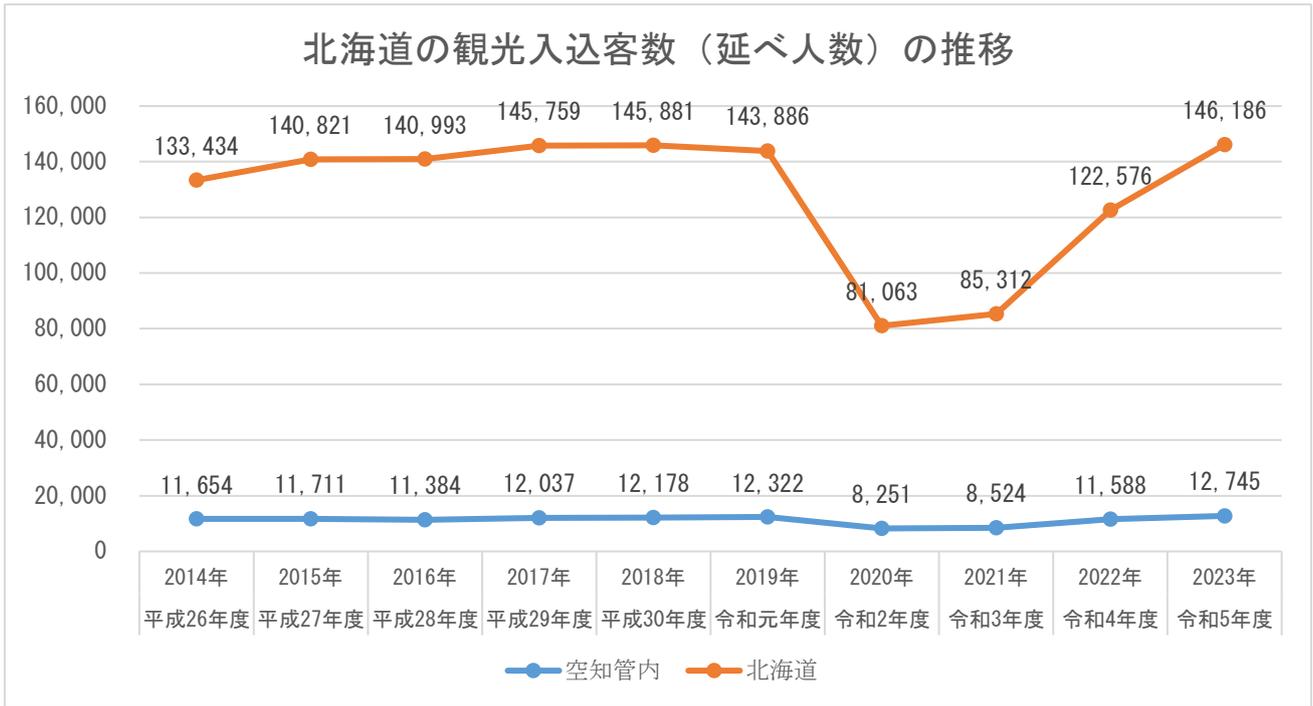
■ 美唄市の観光：観光入込客数の推移 ■



資料) 北海道観光入込客数調査報告書(下表も同じ)

注) 「空知」とは、空知総合振興局を示す(以下同じ。)

■ 参考：北海道・空知総合振興局の観光入込客数の推移 ■



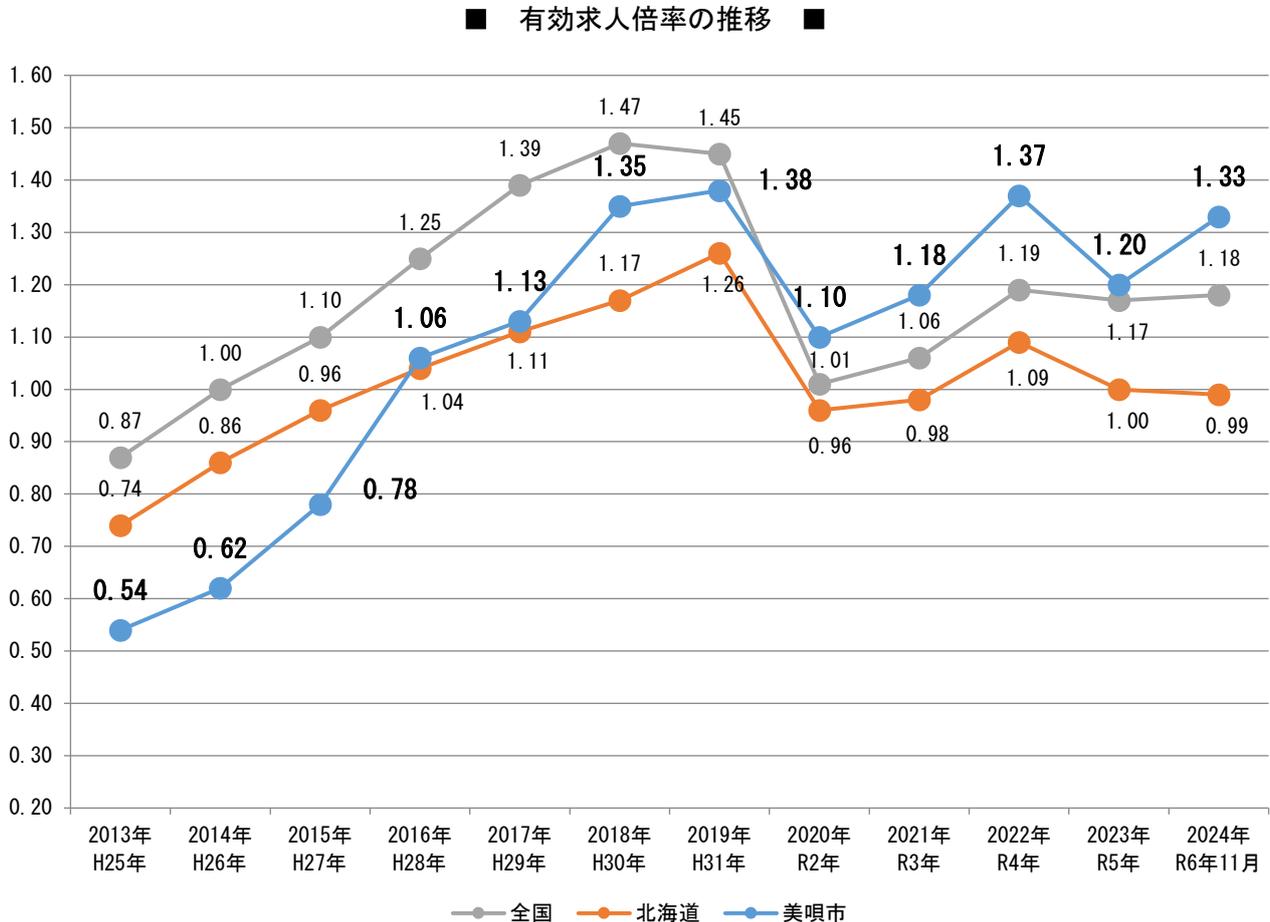
資料) 北海道観光入込客数調査報告書

■ 美瑛市の観光：観光資源の分布 ■



雇用の状況

有効求人倍率の推移をみると、平成 27 年（2015 年）までは 1.0 を下回り、常に全国・北海道の平均を下回っていたが、平成 28 年度以降は労働者不足を背景に 1.0 を上回っている。



資料) 厚生労働省北海道労働局

職種別に有効求人数などをみると、最も求人数が多いのが「サービス」で 342 件、求職数 138 件に対して 2.48 倍となっている。求職数が最も多いのは「事務職」の 322 件に対して求人数 105 件の有効求人倍率は 0.33 倍となっている。

なお、有効求人倍率で最も高いのは「建築採掘」の 7.24 倍となっているが、求職数は 21 件と少なく、また、最も低いのは「事務職」の 0.33 倍で、求職数は 322 件と多く、求人・求職におけるミスマッチが顕在化している。

■ 職種別有効求人・求職情報(2024年(令和6年)11月) ■

資料) ハローワーク情報岩見沢

	職業計	管理職	専門技術	事務職	販売	サービス	保安	農林漁業	生産工程	輸送運転	建設採掘	軽作業	分類不能
求人(人)	1,684	3	328	105	116	342	52	12	218	202	152	154	0
求職(人)	1,539	0	151	322	80	138	9	15	68	82	21	210	443
倍率	1.09	3.00	2.17	0.33	1.45	2.48	5.78	0.80	3.21	2.46	7.24	0.73	—

ハローワーク岩見沢管内の高校新卒者の求人は年々増加しており、就職者数についても同様に増加している。

■ハローワーク岩見沢管内新規高卒者の求人・就職状況■

区分		2020年 R2年	2021年 R3年	2022年 R4年	2023年 R5年
求人数(人)	管内	389	333	341	402
	うち美唄	0	0	0	0
就職者数(人)	就職者数	196	208	208	208
	うち管内	102	88	96	44
	うち美唄	18	13	20	13
管内就職率		52.0%	42.3%	46.2%	21.2%
美唄市内就職率		9.2%	6.3%	9.6%	6.3%

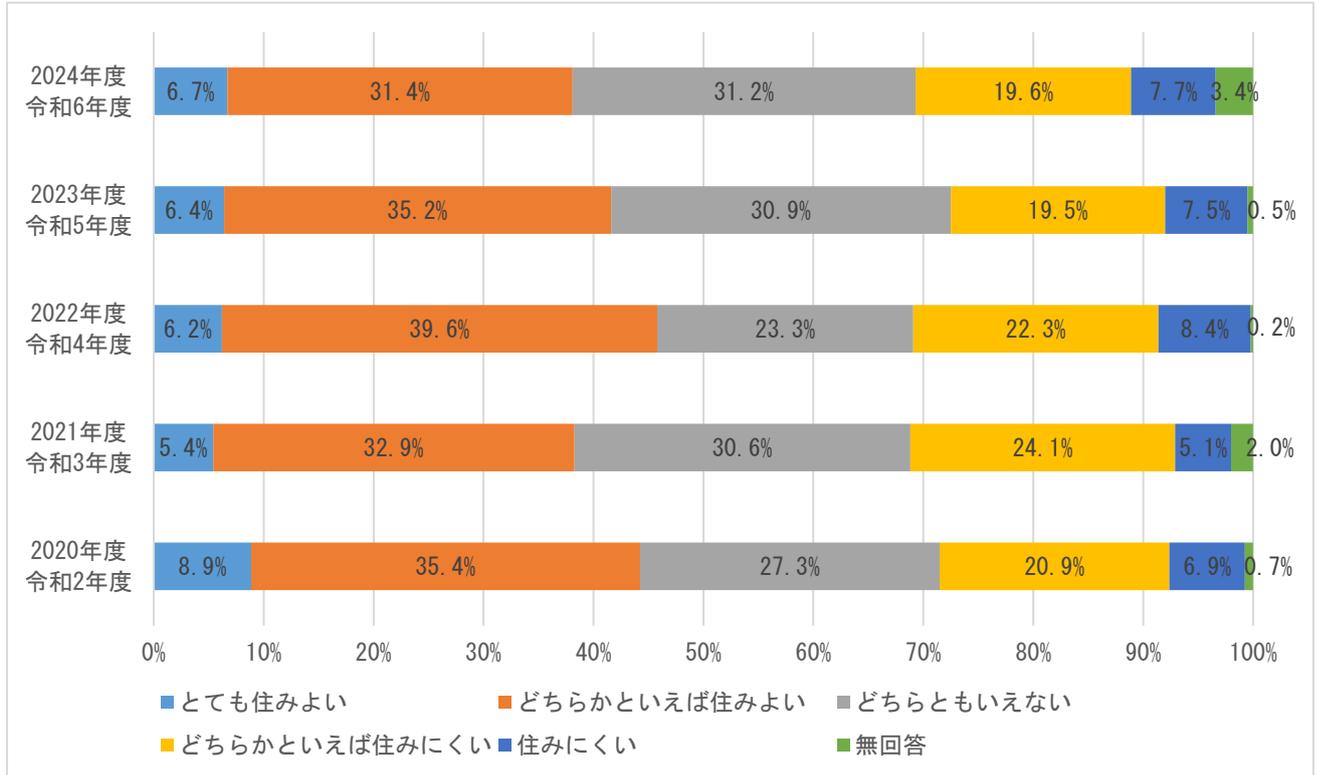
注) 各年3月末

資料) ハローワーク情報岩見沢

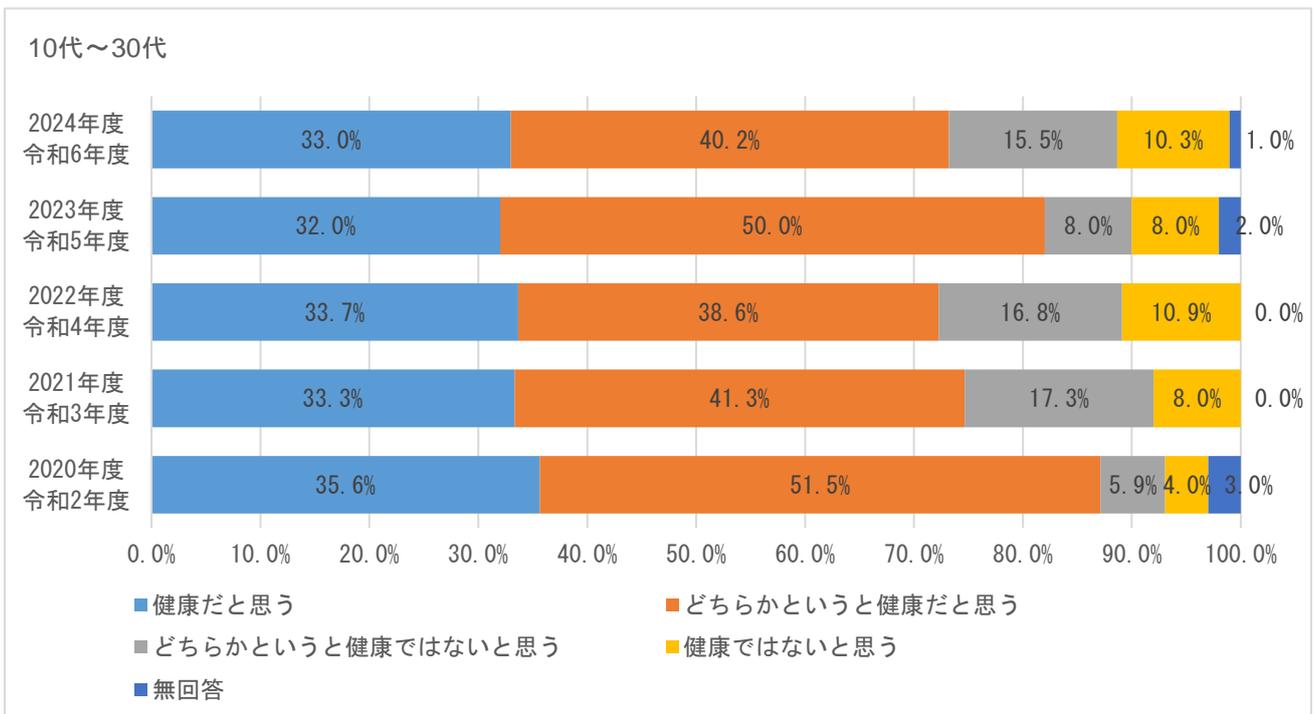
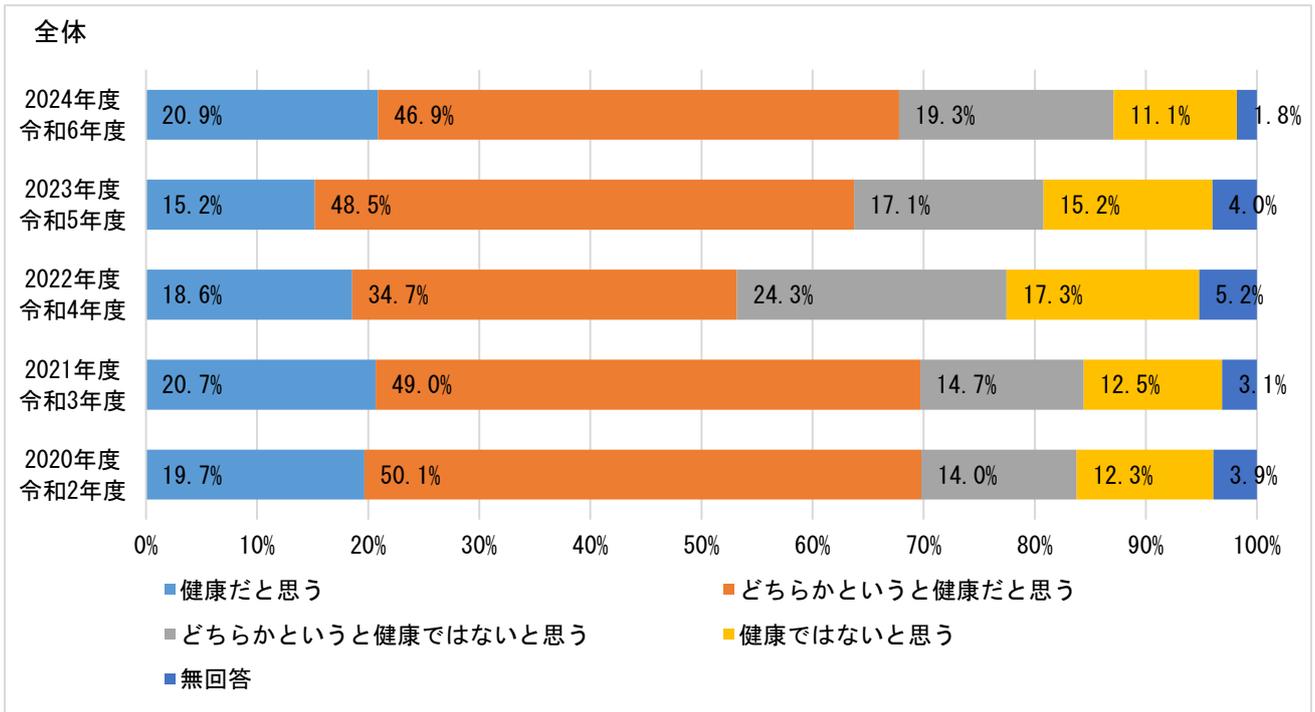
アンケート調査結果

令和6年度美唄市まちづくり市民アンケート調査結果(発送数1,200件・回答数388件:32.3%)をみると、住みよさで最も多いのが「どちらかといえば住みよい」の31.4%となっており、「とても住みよい」は6.7%にとどまっている。

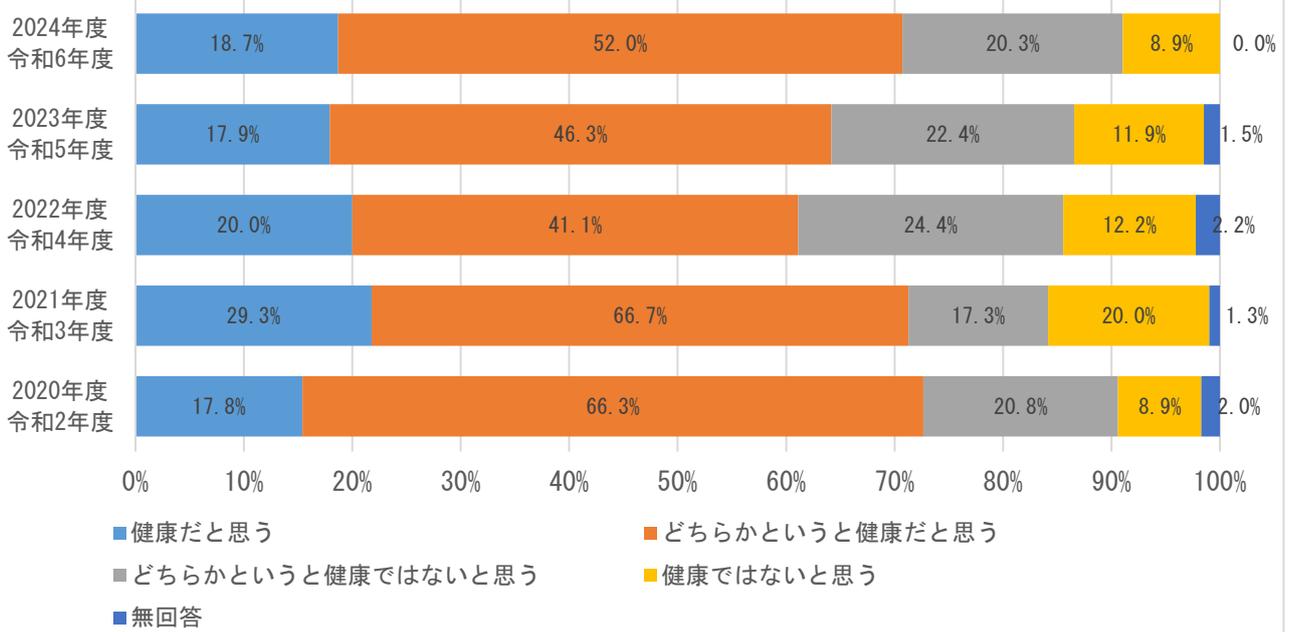
■ 住みよさ(市民アンケート調査結果:回答数388件) ■



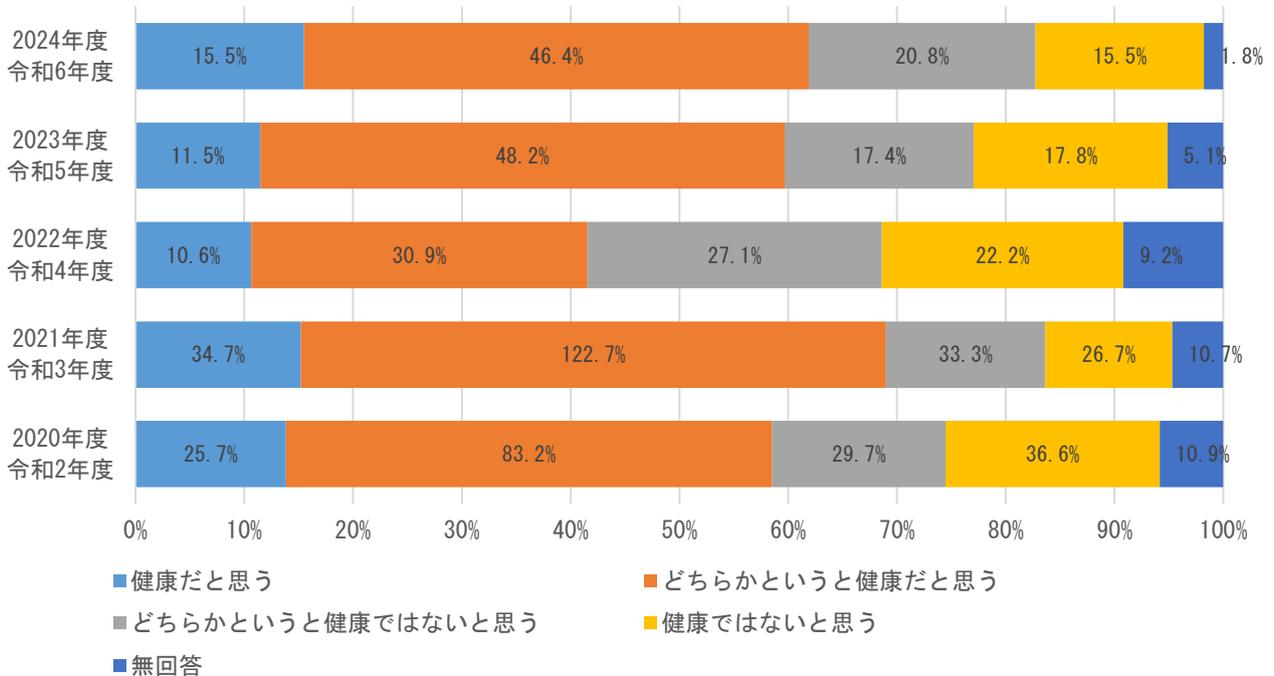
■ 自分は健康だと思うか(市民アンケート調査結果：回答数 388 件) ■



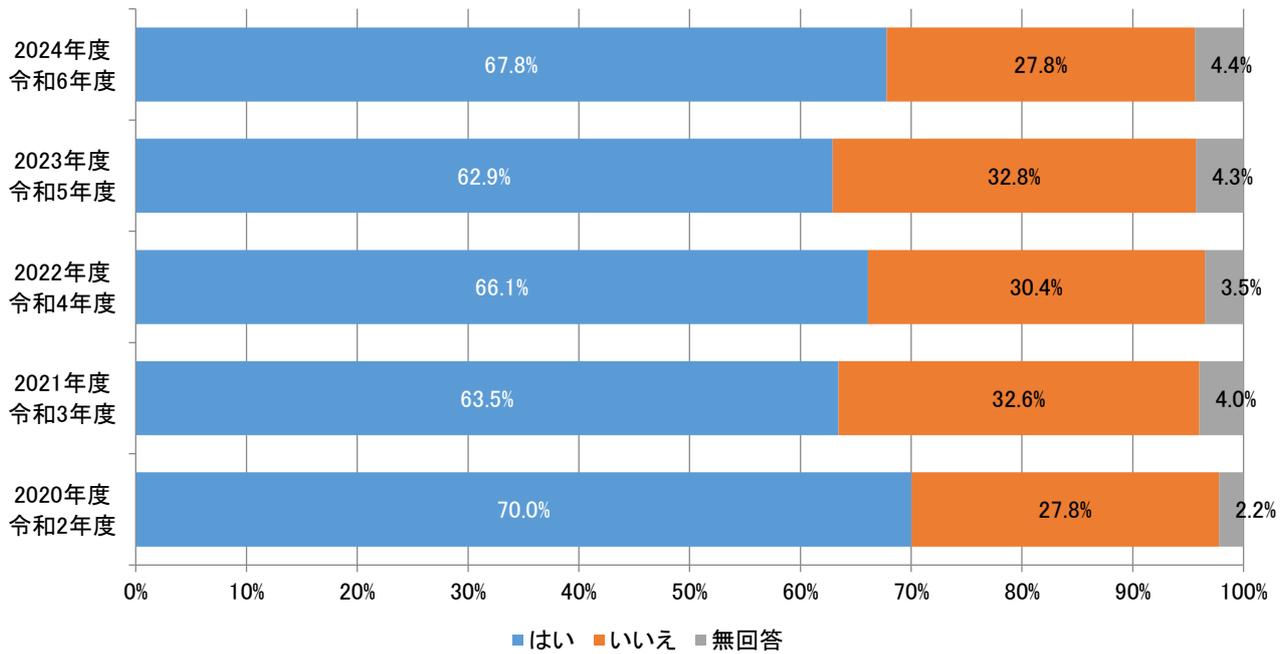
40代～50代



60歳以上



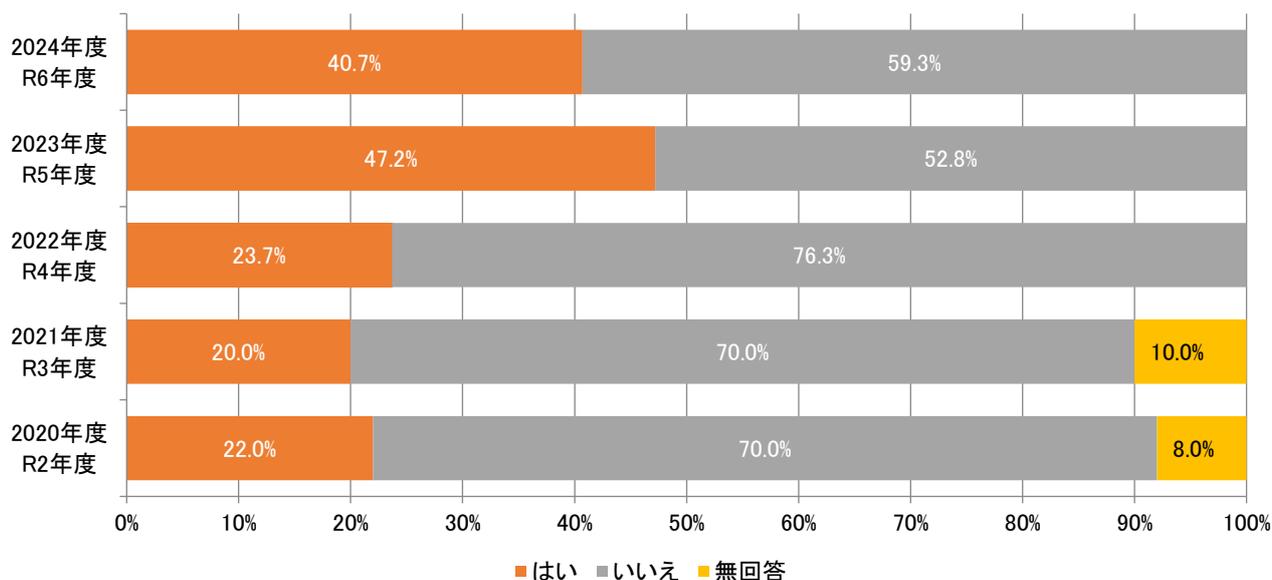
■生きがいを持って暮らしているか(市民アンケート調査結果：回答数 388 件) ■



○上記で「はい」と答えた方で、生きがいはどのようなものか(複数回答可)

	2020年度 (R2年)		2021年度 (R3年)		2022年度 (R4年)		2023年度 (R5年)		2024年度 (R6年)	
	件数	割合								
1. 趣味やスポーツ	126 件	28.6%	102 件	30.9%	136 件	32.2%	107 件	29.9%	129 件	30.8%
2. 家族やペットとの団らん	121 件	27.5%	98 件	29.7%	111 件	26.3%	78 件	21.8%	113 件	27.0%
3. 仕事・学業	97 件	22.1%	56 件	17.0%	61 件	14.5%	57 件	15.9%	99 件	23.6%
4. 自身の健康づくり	60 件	13.6%	45 件	13.6%	65 件	15.4%	64 件	17.9%	52 件	12.4%
5. ボランティアや地域活動	22 件	5.0%	16 件	4.9%	30 件	7.1%	25 件	7.0%	16 件	3.8%
6. その他	14 件	3.2%	13 件	3.9%	19 件	4.5%	27 件	7.5%	10 件	2.4%
合 計	440 件	100.0%	330 件	100.0%	422 件	100.0%	358 件	100.0%	419 件	100.0%

■美唄市は、子育てしやすいまちだと思いますか(市民アンケート調査結果：回答数 388 件) ■



○上記で「いいえ」とお答えの方へ、その理由は何ですか

	2020年度 (R2年)		2021年度 (R3年)		2022年度 (R4年)		2023年度 (R5年)		2024年度 (R6年)	
	件数	割合								
保育サービス・メニューが不十分	12 件	14.1%	10 件	12.1%	19 件	14.1%	6 件	15.0%	17 件	11.2%
幼稚園・小中学校教育が心配	12 件	14.1%	12 件	14.5%	17 件	12.6%	4 件	10.0%	20 件	13.2%
放課後児童施設・児童館等のサービスが不十分	9 件	10.6%	8 件	9.6%	9 件	6.7%	4 件	10.0%	13 件	8.6%
地域教育環境(交通安全、通学時間、風紀等)が悪い	6 件	7.1%	10 件	12.1%	16 件	11.9%	3 件	7.5%	23 件	15.1%
遊び場が不十分	22 件	25.9%	18 件	21.7%	33 件	24.4%	14 件	35.0%	40 件	26.3%
保健・医療環境が不十分	24 件	28.2%	21 件	25.3%	37 件	27.4%	9 件	22.5%	30 件	19.7%
その他	0 件	0.0%	4 件	4.8%	4 件	3.0%	0 件	0.0%	9 件	5.9%
合計	85 件	100.0%	83 件	100.0%	135 件	100.0%	40 件	100.0%	152 件	100.0%

美唄市の人口の将来展望

■推計方法

- ・年齢別人口の加齢に伴って生じる年々の変化を、その要因(死亡、出生及び人口移動)ごとに計算して将来の人口を求める「コーホート要因法」により推計した
- ・基準人口は、2020年(令和2年)の国勢調査人口とした
- ・合計特殊出生率(TFR)は、厚生労働省の「市区町村別生命表」を用いた(本市の直近値(2018年(平成30年)～2022年(令和4年))は1.15)

■美唄市総人口の将来推計

これまでの人口動態等を基に推計された国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)の「地域別将来推計」の算出方法に準拠し、現状のまま推移するとした場合の北海道人口ビジョンの推計と同様とした。

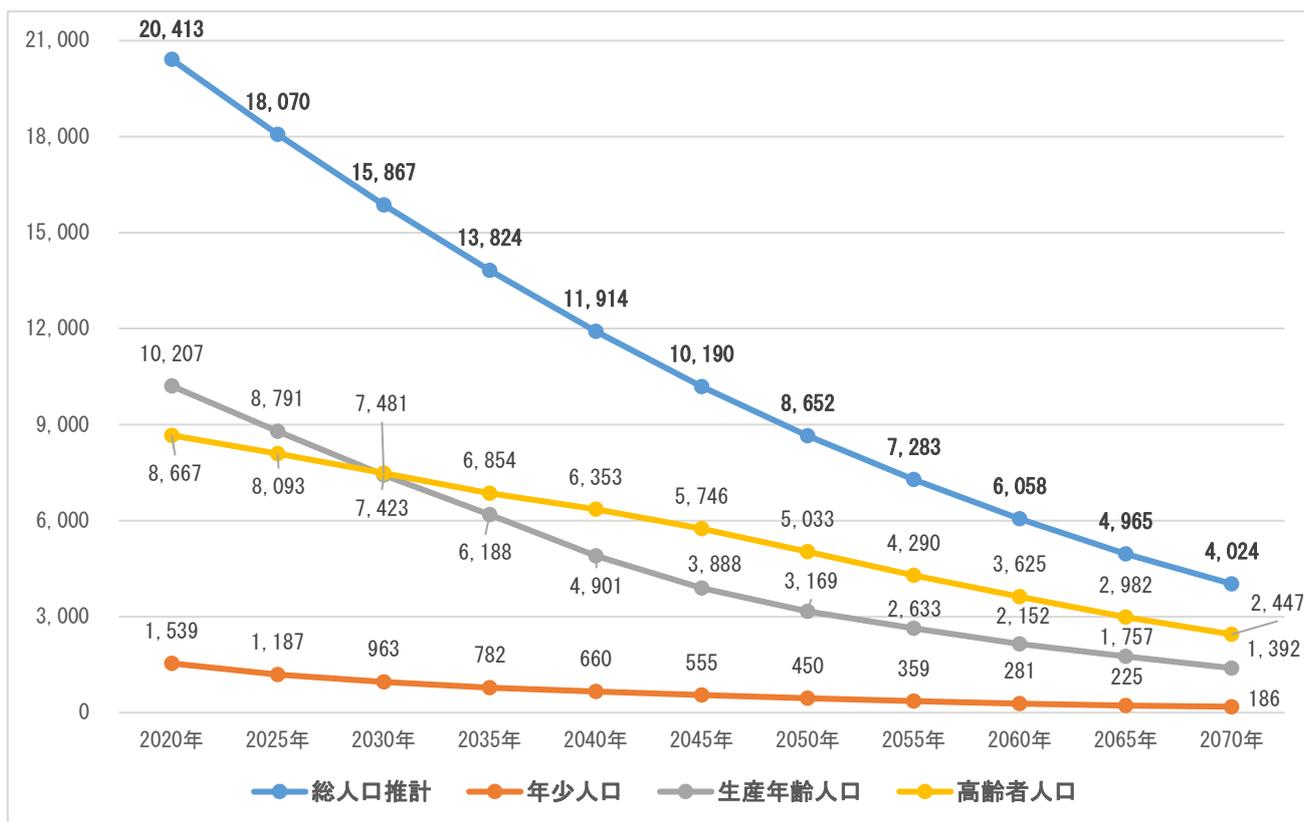
■推計結果概観

推計結果全体をみると、推計の基準年となる2020年(令和2年)の人口は20,413人であり、2040年(令和22年)が11,914人、2070年(令和52年)が3,997人で、2020年(令和2年)対比ではそれぞれ58.3%、19.6%となった。

この推計では合計特殊出生率(TFR)を1.15(本市の実績値)と設定し、これを北海道の推計と同様に2030年(令和12年)1.21、2040年(令和22年)1.24と設定した。

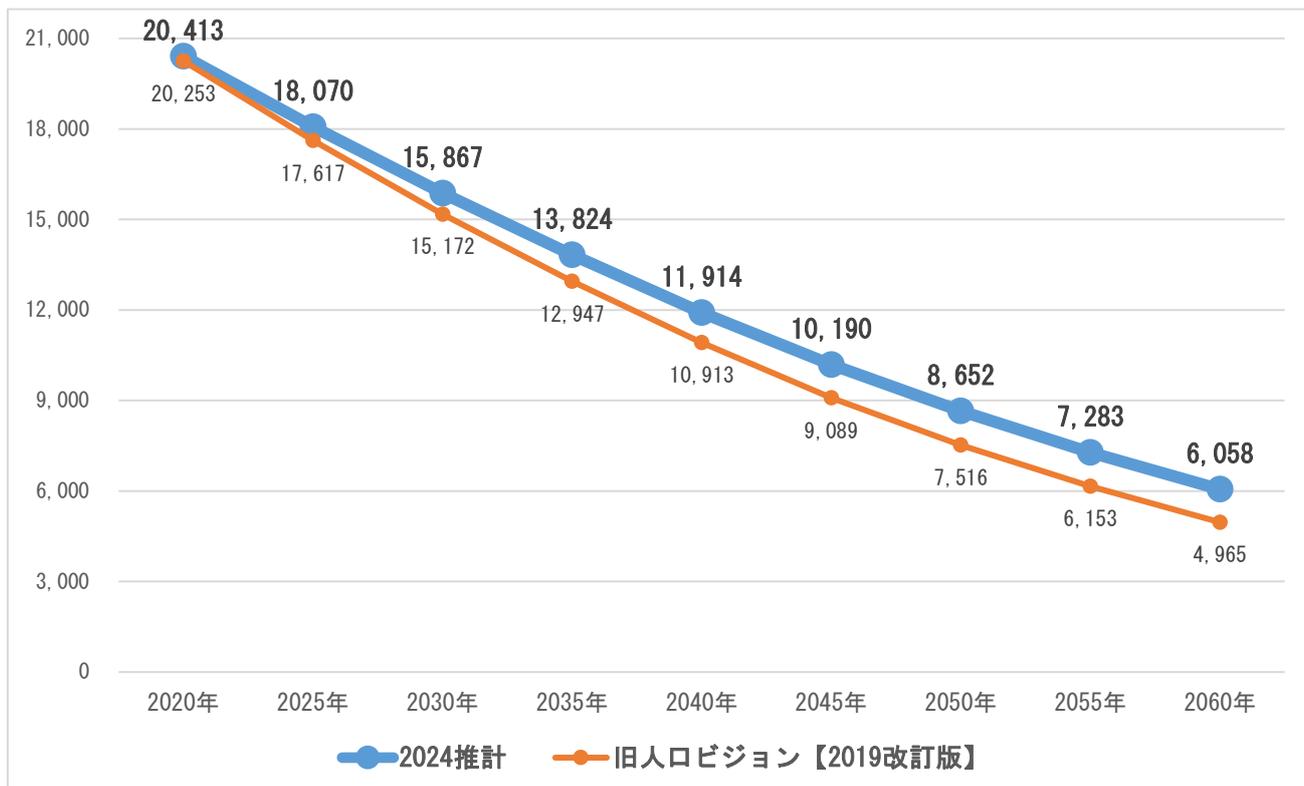
また、前回改訂時の推計と比較すると、本計画による人口減少幅が緩やかになっており、推計上の合計特殊出生率の上昇が要因と考えられる。

■ 美唄市総人口の将来推計 ■



注) 2020 年国勢調査

■ 【参考】旧人口ビジョンにおける人口の将来見通しとの比較 ■

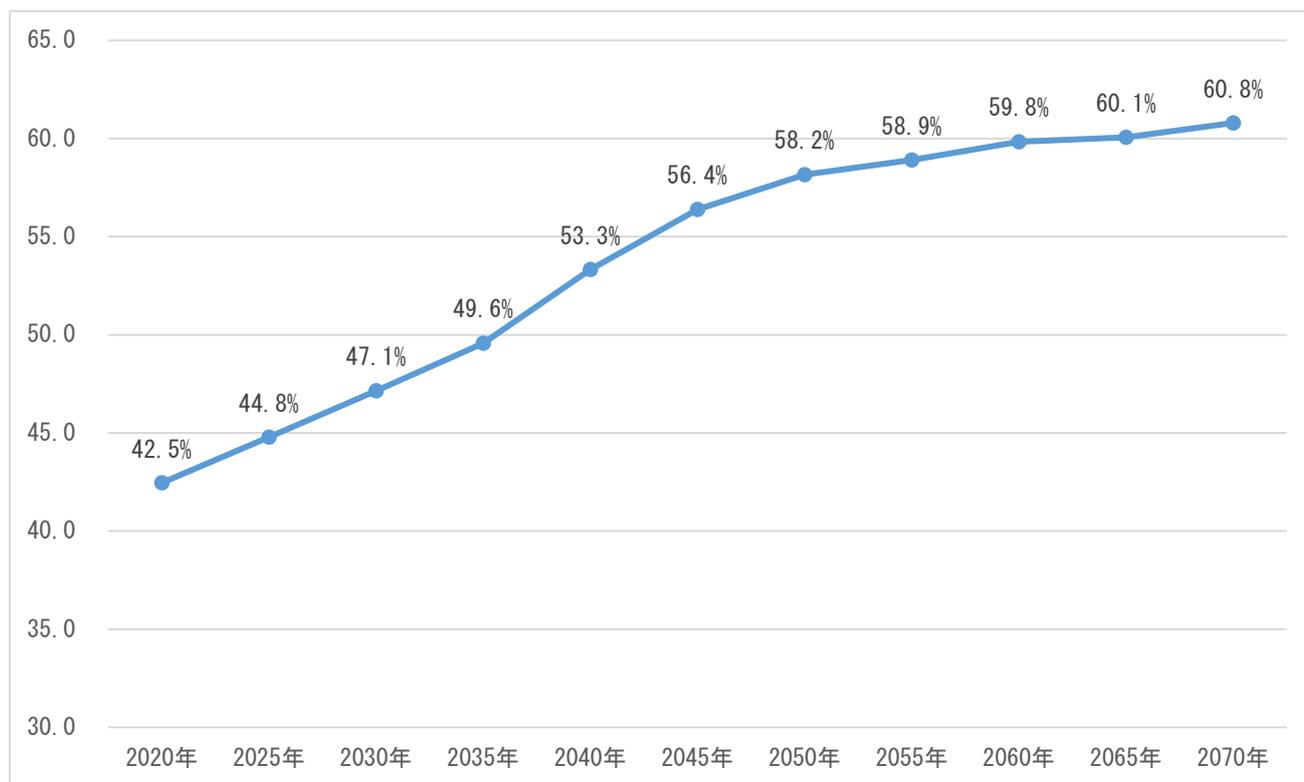


■ 男女別年齢別推計結果 ■

総数	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
計	20,413	18,070	15,867	13,824	11,914	10,190	8,652	7,283	6,058	4,965	4,024
男	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
0～4歳	221	161	137	118	96	81	62	48	39	33	27
5～9歳	259	214	156	133	115	93	79	61	47	38	32
10～14歳	333	254	211	154	131	113	92	78	60	46	38
15～19歳	402	325	247	205	149	127	109	89	75	57	44
20～24歳	335	273	219	166	137	100	84	72	59	50	38
25～29歳	333	284	232	186	142	117	85	71	61	50	42
30～34歳	356	311	264	216	173	132	108	79	66	57	46
35～39歳	419	342	298	252	207	165	126	104	75	63	54
40～44歳	564	410	334	290	245	201	161	123	101	74	62
45～49歳	699	554	402	328	285	240	197	158	120	99	72
50～54歳	634	700	556	404	329	285	240	197	158	120	99
55～59歳	698	622	687	547	397	324	281	236	194	155	119
60～64歳	724	667	594	657	524	382	311	270	227	187	149
65～69歳	881	675	626	560	620	496	362	295	256	215	177
70～74歳	921	795	611	569	511	569	456	333	271	235	198
75～79歳	703	794	686	531	498	449	502	403	294	240	208
80～84歳	515	535	631	550	430	407	370	414	332	242	197
85～89歳	392	339	360	435	385	306	294	267	299	240	175
90～94歳	147	179	165	181	226	204	167	160	146	163	131
95歳～	29	43	62	64	72	92	89	77	71	65	68
計	9,565	8,478	7,478	6,546	5,671	4,882	4,175	3,534	2,951	2,429	1,977
女	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
0～4歳	199	153	130	112	91	77	59	46	37	31	26
5～9歳	221	187	144	123	106	86	73	56	43	35	29
10～14歳	306	218	185	142	121	104	85	72	55	42	35
15～19歳	515	401	286	242	186	157	134	109	92	71	55
20～24歳	270	281	217	154	131	100	84	72	58	49	38
25～29歳	277	212	220	170	121	103	78	66	56	46	39
30～34歳	279	269	202	211	163	117	99	75	63	54	44
35～39歳	398	262	252	188	197	152	109	93	71	59	51
40～44歳	537	384	253	242	181	189	146	105	89	68	57
45～49歳	642	521	372	244	234	174	183	141	101	86	66
50～54歳	674	633	514	367	241	231	172	180	139	100	85
55～59歳	691	668	627	509	364	239	229	170	179	138	99
60～64歳	760	672	649	610	496	355	233	224	166	174	135
65～69歳	955	721	639	617	581	473	339	223	213	159	167
70～74歳	1,164	904	685	608	589	554	453	324	213	204	152
75～79歳	947	1,079	846	643	572	555	524	428	306	202	193
80～84歳	864	801	934	737	563	504	491	464	378	271	178
85～89歳	676	645	612	726	579	447	403	393	371	303	217
90～94歳	352	414	401	390	475	385	303	273	266	252	205
95歳～	121	169	222	242	253	305	280	237	207	192	180
計	10,848	9,593	8,389	7,278	6,243	5,308	4,477	3,749	3,106	2,535	2,048

なお、これら暫定推計結果の老年(65歳以上)人口比率をみると、はほぼ一貫して増加傾向にあり、2040年(令和22年)に50%を超えて53.3%となり、2070年(令和52年)には60.8%に達する。

■ 老年人口比率の推移(推計結果) ■



注) 総人口推計の65歳以上の割合

人口を中心にした美唄市の現状

■これまでの人口推移からみた現状

- 炭鉱閉山等を契機として人口は大きく減少し、閉山後も漸減が続く
- 若年層の減少が顕著。とりわけ、20歳代、30歳代の女性の減少が特徴的
- 男女とも50歳代以降では人口減少が鈍化

■これまでの人口動態からみた現状

- 社会増減は年度間でバラツキがあるものの、年間150人程度の転出超過で推移。自然増減は人口減少に伴う高齢化率の上昇及び出生数の低下とともに自然減少が加速している。
- 国道を挟んだ西側と東側で人口減少のスピードに違いあり
- 本市に在住して市外に通勤・通学している数が、市外に在住して本市に通勤・通学している数をやや上回っている
- 本市全体で見ると、主な転出先は札幌市と岩見沢市で、アンケート結果などをみると、札幌市は主として就職や転職、岩見沢市については転勤などが主な理由

■これまでの出生率などからみた現状

- 本市の合計特殊出生率は、1.15と低位
- 過去の推移や周辺市町村と比較しても、相対的に低位

■これまでの産業などからみた現状

- 全就業者数に占める第1次産業の比率が13%と相対的に高い
- 製造業ではプラスチック製品製造業が最も出荷額等が大きいが、食料品製造業にも厚みがあることに加え、製造業の事業所数や就業者数は減少しているものの製造品出荷額等は横ばい傾向にある。
- 国勢調査において3次産業の就業者数が6割を超えるが、ここでも卸売業・小売業の就業者数の減少が顕著である一方、医療・福祉の減少幅は小さい

■これまでの観光からみた現状

- 観光客入込数は相対的に低位にあることに加えて、横ばいで推移
- 観光資源が分散しており、連携がなされていない

■これまでの雇用や起業などからみた現状

- 有効求人倍率は1.33(令和6年11月)と、平成25年以降上昇し平成28年以降に1.00を超えており担い手の不足化顕在化している。
- 求人倍率は全国、北海道平均よりも高い。
- 人気の高い常用雇用や事務職の求人が少ないなど、雇用のミスマッチがある

■ライフステージからの現状

- 出生(出産)は、出産適齢期と考えられる20～39歳の女性が、他の年齢階層と比べても相対的に少ないことに加え、出生率も低いことから増加が(今のところ)見込めない
- 進学、就職のタイミング(20～24歳)で、男女ともに大幅な減少(ここが最大の課題)
- 20～40歳の年代で男女ともに減少が顕著であり、おそらくは結婚や転職(職探し)などのタイミングでの市外転出が相当数あり
- 50歳代以上も減少(流出)が続いているが、若年層のような顕著な傾向はないものの、比率としては高齢化が高まっていく傾向にあり
- 高齢者数の増加により死亡数が増加していることに加え、出生数が減少しているため人口の自然減が増加傾向にある。

人口の変化が美唄市に与える影響

- 出生数の減少
- 若年層(特に女性)の減少
- 進学や就職といったタイミングでの大幅な減少
- 生産年齢人口(特に若年層)の減少
- 高齢比率の上昇(絶対数は低減も、比率としては上昇)

■産業への影響・雇用について

- 産業構造の変化(炭鉱など)が顕著であるが、農業や製造業などが地域経済を下支えしている。
- 農業の法人化や新規就農の促進により基幹産業である農業従事者を確保することが必要。
- 現時点では低調な観光による交流人口を増加させることや産業としての活性化が不可欠。
- 総人口及び生産年齢人口の減少は、地域の雇用にも大きな影響を与えるが、その内訳をみると、都市部などへの求人の集中や、事務系職種への人気の偏りがある一方、建設や運輸といった業種では人手が不足するといった雇用のミスマッチが顕著になっている。
- 今後進行する高齢化では、医療や福祉といったサービスの需要の増加が見込まれるが、すでに現段階においても、福祉関係機関の看護師や介護福祉士などの人材は不足している。
- このような傾向は、今後も当面は続くものと考えられるが、これからの人口減少下において、地域全体では雇用の場が足りずに、若年層、とりわけ中学や高校などを卒業する時期に札幌圏などへの進学・就職(流出)が引き続き予想される。
- その反面、「人手不足」が懸念される業種での慢性的な人材不足、特に福祉などは今後の需要拡大が見込まれていることから、需要と供給との格差がさらに拡大して、地域における各種サービスの維持が、質・量ともに困難になっていくことが予想される。
- 雇用の「質」を考えた場合、人口増加・維持にプラスの効果をもたらす正規・常用の雇用が必要である。

○労働者不足によりほとんどの業種で「人手不足」となっており、特に福祉や建設、運輸関連では、今後も不足が深刻化し、場合によっては、地域のインフラ整備や物流などにも影響を及ぼしかねない懸念もある。

○労働者不足を背景として、求職者の売り手市場は今後も続くものと思われ、働き方改革等による雇用環境の改善に取り組む事業所や業種に人材が流れていくものと予想される。

■産業別人口及び交流人口について

○本市の産業別人口を国勢調査からみると、第1次産業が1,204人で全体の13.0%、第2次産業が1,927人で同20.8%、第3次産業が5,948人で同64.3%となっている。

○同様に、人口減少下においては、交流人口の増加によって、商業や各種サービス業などの底上げを図る狙いもあり、本市では入込客数の増加が求められる。

■地域の資源について

○地域に様々な資源があり、観光などで顕著なように今後活用できる余地は大きい。

○こうした資源の利活用によって、観光だけでなく、移住の促進や特に若年層の流出に対する歯止めともなり得る。

○このためには、これら地域資源を含めた情報の多面的な発信が必要となる。

■結婚、出産、子育てについて

○市民アンケート調査結果をみると、子育て支援などに対する期待も大きい。

○これらについては、結婚から出産、子育てといったライフサイクルに沿った支援メニューの充実はもちろんのこと、女性の職場復帰、「働きやすい環境」といった視点からのワーク・ライフ・バランスの推進なども不可欠になる。

○その推進に当たっては、こうした意識の啓発が土台となることから、制度だけでなく、様々な働きかけも必要になる。

○このように、職場環境や雇用なども含め、体系立てた支援や取組を行っていく必要がある。

■安心・安全な生活の維持について

○人口減少下においては、間違いなく現行の公共施設の数や機能は余剰化していくことになる。

○このため、今回の将来人口推計などに基づいた理論的な見通しによる必要施設量予測や、総量縮減に向け、課題などをあらかじめ整理した上で目標達成までのスケジュールを明示することなどにより、財政負担の減少や本市の公共施設再編マネジメントにつなげていく必要がある。

○あわせて、今後の交流人口の増加を見据えると、観光に関する取組の一層の活発化なども不可欠になるが、観光客の動向やニーズなどから、より広域的な枠組み、例えば北海道や道央といった地域での連携や連動といった切り口も必要になる。

○このように行政など内部効率化に向けた連携と、観光など外部との連携といったように両面での検討が重要になる。

今後の検討の視点

今回実施した推計をみると、2040年(令和22年)に本市の人口は、11,914人にまで減少する。

今後も人口減少が懸念されることから、様々な課題の洗い出しを行う必要があるが、その上で、課題解決のための方向を定め、具体的な施策を講じる必要があることから、今後の人口減少問題に取り組む基本的視点として、以下の4点をこの人口ビジョンで設定する。

- 高齢者人口の減少局面の到来によるさらなる人口減少
- 自然増減による人口減少の懸念(出生数の減少)
- 社会増減による人口減少の懸念(人口の流出)
- 産業構造の変化等による地域経済への影響(経済などの規模縮小)

美唄市人口ビジョン（2024年度改訂版）

令和7年3月

美唄市総務部企画財政課

〒072-8660 美唄市西3条南1丁目1-1

TEL 0126-62-3131 FAX 0126-62-1088 メール kikaku@city.bibai.lg.jp

ホームページ <http://www.city.bibai.hokkaido.jp/>
